

1999 年度
インディアナ大学
スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア
夏期語学集中講座
The Summer Workshop in Slavic,
East European and Central Asian Languages
(SWSEEL)¹

鈴木 淳 一

1999 年度の海外研修の折りに（1999 年 4 月～2000 年 3 月）、今年で 48 回目を迎えるというインディアナ大学ブルーミントン校のロシア・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座（1999 年 6 月 18 日～8 月 13 日）に数度にわたって参加し、その授業風景を見学するとともに講師陣のうちの幾人かとは言葉を交わす機会も得た。この紙面を借りてその講座の様子を、資料としての利用価値もまんざらないわけではあるまいと密かに念じつつ、報告方々紹介してみたい。ただしその報告は、筆者の能力および関心上、ロシア語が中心であり、その他の言語については軽く触れる程度でしかないことをお断りしておこう。

また報告紹介というからには、感想や意見の挿入、情報の重複はなるべく避けるべきかもしれないが、そうした配慮にもあまりこだわらないことにしよう。

1 興味のある方のために連絡先を紹介しておこう。

ホームページ=<http://www.indiana.edu/~iuslavic/swseel.html>、Eメール=SWSEEL@indiana.edu

1. 講座の全体像

スラブ・東ヨーロッパ・中央アジアと冠されているが、この夏期語学集中講座に実際に含まれているのは、ロシア語、東ヨーロッパ諸語、中央アジアおよびザカフカス諸語の3つのプログラムと、ようやく6回目を数えるというバルト三国諸語プログラムの計4つのプログラム（総計14言語）である²。受講者を上限200人に制限し³、国の内外から招聘された熟練の語学教師（ネイティブスピーカー）の指導する8週間の集中教育によって（ただしロシア語だけには4週間コースもある）、入門、初級から上級までのレベル別に設定された語学能力（話す・読む・聞く・書く）を達成することを目的としたこの講座は（ただし3レベル以上設定されているのはロシア語のみ）、どの言語のいかなるレベルのコースを選択・修了しても、通常の1学年（インディアナ大学では2セメスター）分のクレジット（credit＝単位）が、言語によってその量に多少の差はあるにしても、取得できる仕組みになっている。

今年度それぞれのプログラムで開講された言語、およびそのレベル数とクレジット数の概要は次の通りである。なおレベルが少ない場合には、基本的に下位のレベルから設定されていると考えて差し支えない。つまりレベルが1つしかない場合は初級者用のコースしかなく、2つしかない場合には初級者用と中級者用のコースしかないということである（ただしレベルの呼び名に統一性はない）。コースを3つ以上持っているのは、前述したように、ロシア語だけである。

2 ウクライナ語と白ロシア語がないのは不思議であるが、たとえばウクライナ語はウクライナ研究所のあるハーヴァード大学だけで十分で、インディアナ大学で開講する必要性はなしとのことであり、そのかわりにアゼルバイジャン語、カザフ語、トゥルクメン語、ウズベク語などについては他にあまり例がなく、宣伝にもなるので、人数の多寡にかかわらず存続させたい意向のようである。ちなみに一昨年はチェチェン語のコースもあったそうである。

3 今年はロシア語 66 人、東ヨーロッパ諸語 30 人、中央アジア・ザカフカス諸語 29 人、バルト 3 国諸語 14 人の総計 139 人であった。

* ロシア語プログラム (Russian Program)

ロシア語（9 レベル＋特別コース 2／学部、大学院とも 10 クレジット、ただし特別に設定された 2 コースは学部・大学院とも 3 クレジットであり、大学院のクレジットが認められるのは 7～9 の上位 3 レベルと特別コースのみ）⁴

* 東ヨーロッパ諸語プログラム (East European Program)

チェコ語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

ポーランド語（2 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

ルーマニア語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

セルビア語・クロアチア語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

ハンガリー語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

* 中央アジアおよびザカフカス諸語プログラム

(Program in the Languages of Central Asia and the Transcaucasus)

アゼルバイジャン語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

カザフ語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

トゥルクメン語（2 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）⁵

ウズベク語（2 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

グルジア語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）⁶

* バルト三国諸語プログラム⁷

エストニア語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

ラトヴィア語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

リトワニア語（1 レベル／学部 8 クレジット、大学院 6 クレジット）

4 4 週間コースは 5 クレジットだが、9 レベル中 1～6 までのレベルしか選択できないから学部の単位にはなっても、大学院の単位とは見なされないことになる。

5 募集パンフレットでは初級レベルのみとのことであったが、実際には初級と中級の 2 レベルのクラスが編成された。

授業は週に月～金の5日間で、毎日4～5コマ（1コマは50分）である。1クレジットとは1コマ×1セメスターの週数（≤15）、つまりおよそ15コマにあたるから、10クレジットの場合は約150コマの授業が、また6～8クレジットといえは90～120コマの授業が展開されていることになる。

また講座開催期間中は正規の授業以外にも毎日、ウィークデイは夕食後に、ウィークエンドは午後から何らかの言語に関わる講義や映写会、コンサートなどが催されている。文学やら歴史、ジャーナリズムなどの専門家が、言語の背景にある文化のごく基本的なことを大半は英語で解説したり、普段は滅多にお目にかかれない映画やテレビ番組を上映したりすることによって、何らかの分野への興味を喚起し、言語を学ぶ推進力にするのが狙いである。就職関係の情報紹介もあるらしく、今年はCIAが予定されていた。それぞれの語学コース専用のTシャツ販売の申し込み期日までが組み込まれているのは、アメリカならではかと思われた（「付録1－1」 pp. 352～354 参照）。

さらに注目されるのは寮に居住するロシア語プログラムの受講生の取り扱いである。彼らは好むと好まざるとにかかわらず、Russian Language House と名付けられた特別区画に部屋を割り振られ、食堂でも Russian Language Table と名付けられた特別な座席を指名され、食事をロシア語の教員とともにロシア語だけで済まさないといけないばかりか（講座のために招聘されたロシア人講師が5～6人同じ寮の同じ階に居住している）、部屋にいるときもロシア語以外の言語を口にしてはいけないのである。さすがにレベル1～3ぐらいの受講生はときに閉口しているようであるが、聴く・話すという能力の開発

-
- 6 グルジア語については、予算の都合が付き次第という但し書きが募集パンフレットにはついてしたが、誰かが政治力を発揮したのか予算が取れたらしく、無事に開講された。ちなみにパンフレットではグルジア語は東ヨーロッパ諸語プログラムに分類されている。また「中央アジア・ザカフカス」という名称は「中央ユーラシア」と言い換えられることもあるようである。
 - 7 正式名称は Baltic Studies Summer Institute (BALSSI) といい、イリノイ、アイオワ、ミシガン、テキサス、ワシントンといった複数の大学との提携のもとに運営されているようである。またバルト三国語の場合、4週間の文化講座も併設されており、それぞれ3クレジット取得できることになっている。

には大いに役立っているようである。言語シャワーを長く浴び続けるのが言語習得にどれほど有効な手段であるかは、子供が言語を習得する過程を思い起こすまでもなく、札幌大学でも夏期の短期合宿で取り入れている方法の一つである。

日本の大学の現状から見て面白いと思ったのは、その実際の効果がどうあれ、ここでも点検評価のシステムがきちんと機能しているということである。すなわち講座が始まってちょうど中日にあたる 4 週目に講師に関するアンケートが実施され、その結果が各講師に通知されるとともに、その結果に基づいて講座全体の責任者（Jerzy Kolodziej, Department of Slavic Languages and Literatures）が各講師と面談のうえ、講座前半の授業のあり方について点検評価し、それが講座の後半に活かされるようにするわけである。ちなみに点検評価の対象は授業に限られているわけではない。前段で紹介した授業外の活動や住居、食事、それにプログラム全体の組織運営のあり方にまでおよんでおり、例えてみれば中身はもちろん包装紙やその包み方までが配慮されているということになるだろうか（「付録 1－2」 pp. 354～356 参照）。

授業料は 1 クレジットについて 152.90 ドル（ただしインディアナ在住の学部生は 113.15 ドル）で、たとえばロシア語の場合 8 週間 10 クレジットで 1,529 ドルということになる。それにさらに登録料に 100 ドル、雑費に 100 ドルかかる。また寮に住むとしたら、寮費はエアコンつき 1 人部屋の場合、8 週間で去年の実績が 657 ドル、くわえて寮に住む条件として最低 370 ドル（去年実績）のミールポイント（学生証がプリペイドカードのようになっていて、払った代金のポイント分だけカードで食事ができる仕組み）を購入しなくてはならない。寮費やミールポイント代は値上げが予告されているから、かりに寮に住んでロシア語の 8 週間コースを選択するとしたら、最低でも 2,800 ドルの出費を強いられることになる。教科書やら辞書、参考書、遊興費等々を加味したら、実際には 3,500 ドルは必要になるのではなかろうか。これは 1 ドルが 120 円だとすればほぼ 42 万相当であるが、妥当な数字と見るべきであろうか、高いあるいは安いと見なすべきであろうか？

2. 教授法講座 (Two Day Pre-Workshop Workshop for Slavic, East European, Baltic, and Central Asian Language Instructors)

夏期語学集中講座は通常、開講式直前の2日間を教授法の講座に当てている。その目的は語学の教師に新しい教授法を紹介し、語学教育の発展を促すというものである。したがって名目上は誰でも無料で参加できることになっているが、参加者はもちろん集中講座の講師陣が中心、というより講師陣の有志だけである。どれほどの効果があるかはさておき、情報の公開と講師陣の親睦という意味では評価できる試みであろう。

“New Approaches in Teaching Communication Skills” と題された今年度の講座は、ミネソタ大学の Bill Johnston 教授（第2外語としての英語／ポーランド語）、南カリフォルニア大学の Tatiana Akishina 教授（ロシア語）を報告者として、以下のスケジュールで進められた。

6月16日	9時	開会式
	9時10分	“Ideas for Teaching Grammar” (Bill Johnston)
	10時10分	“Ideas for Teaching Reading” (Bill Johnston)
	11時10分	“Ideas for Teaching Writing” (Bill Johnston)
	13時30分	“Culture, Videos, and Songs” (Tatiana Akishina)
6月17日	9時	“Ideas for Teaching Speaking and Listening” (Tatiana Akishina)
	10時40分	“Games and Simulations” (Tatiana Akishina)
	13時30分	“Using the Imagination” (Bill Johnston)
	15時30分	夏期集中講座講師陣顔合わせ
	17時	レセプション

次にそれぞれの報告を概観してみよう。

①“Ideas for Teaching Grammar”

ここでは2つの質問が報告者から提示され、それぞれについて3～4名のグループで話し合った結果を代表者が発表し、その発表された意見について全体で質疑応答したり、討論したりするというものであった。ちなみにその質問とは次の通りである。

- I. 現在一般に流布されている文法事項の順番を無視して教えた場合、どのような有利、不利が生じるか？ すなわち現在形の前に過去形あるいは未来形を教えるとか、主格を教えずにいきなり生格（所有格）あるいは対格（直接目的格）を教えたら、教師側の教え方や生徒側の学び方にどのような変化が起こるか？
- II. もしも教師がアウトプットではなくインプットに焦点を合わせるとしたら、すなわち生徒が格とかアスペクトといった文法事項を生産的に使いこなすことよりも、格とは何でありどんな形態をとりうるかを理解することに焦点を合わせて教えるとしたら、どういうことになるか？ テストの方法を始め、教え方にどのような差異が生じるか？

質問が質問であるだけに、その場になくとも侃々諤々議論は尽きなかったことは容易に察しがつこう。しかし共通言語は英語であり、筆者はまるで議論についてゆけず、ただただ呆然と言葉が行き交うのを傍観し、想像を逞しくするのみであった。そしてただ漠然と、もしかして日本の日本人による語学（ロシア語）教育は、もちろん時間的な制約もあって、インプットの面にしか焦点があっていないのではないかという思いに捕らわれたことであった。

②“Ideas for Teaching Reading”

ここでは次のような3つの具体的な方法（ゲーム）が示され、参加者全員が生徒として参加した。

I. マリエンバート・ゲーム（The Marienbad Game）

提示されたテキストから生徒が順々に単語あるいは語句あるいは文を、残ったテキストが意味を失わないように取り去ってゆくというもの。必

然的に最後には1語しか残らないことになるが、それを取り去る番にあたった生徒が敗者である。今回実際に提示されたテキスト (Yoga: “Vacations in Kurpieland”) については「付録2-1」pp. 356~357 参照。

II. 詩を書き換えてみよう (Re-writing the Poem)

与えられた詩の単語を1語1語、全く別の詩ができあがるまで取り換えていくゲーム。今回実際に使用された詩 (“Anecdote of Rain”) については「付録2-2」pp. 357~358 参照。

III. 詩に新しい連を付け加えよう (Extending the Poem)

与えられた詩を読み、それにならって新しい連を自分で付け足してゆくゲーム。今回実際に使用された詩 (Adrian Mitchell: “Cabbage”) については「付録2-3」pp. 358~359 参照。

③“Ideas for Teaching Writing”

ここでは次の2つの具体的な方法 (ゲーム) が紹介され、これまた参加者全員が生徒となって取り組んだが、時間の都合上2つ目のものは説明だけで終わってしまった。

I. ミス・ロンリーハート

(イ)新聞や雑誌の相談室欄へ投稿するつもりで自分の悩み事をカードに書き、それを1カ所に集める。

(ロ)集められたカードから参加者各人が無作為に一枚選び、それに対する返事を2枚目のカードに書く。

(ハ)最初のカード作成者が自分のカードとそれに対する返事のカードを読み上げる。

(ニ)悩み事のカードと返事のカードをそれぞれに1カ所に集め、参加者各人が無作為に一枚ずつ選び、一致しない悩み事のカードと返事のカードを読み上げる。実例については「付録2-4」pp. 359 参照。

II. 創造的翻訳 (Lost Translation)

よく意味の分からない、ということは翻訳に不向きなテキストを生徒が想像力を使って創造的に翻訳するというゲーム。生徒が自分の語彙力、文法力を総動員し、必要なら造語までも駆使して、とにかくにも意味のある翻訳を仕上げることによって言語の能動的運用力を、楽しみながら（なぜなら自分にとっては意味があっても他人には訳の分からないものや、またまったく解釈のことになるものが多々できあがるだろうから）高めるのが狙いのようなのである。ただし実践が伴わなかったので、よく分からないというのが本音である。

④“Culture, Videos, and Songs”

言語と文化は不可分であることは周知の事実であろうが、文化とは何であり、言語学習の際に不可欠な文化についての基礎的情報とは何かとなると、話は途端にややこしくなってしまう。実際 2～3 人のグループで文化情報必須 3 項目なるものを決めてみよという報告者の提案に、議論は尽きるところを知らなかった。結局次のような文化情報に関する網羅的分類表に基づいてそれぞれの教師がアンケートを作成し、何度か実施しながら生徒の興味の在処に従って情報を提供してゆくしかないのではあるまいかということである。当然の結論のように思えるし、不毛の議論に時間の無駄の感も否めないが、言語が透明な存在ではない以上、情報交換の意味も込めて反復して話題の俎上に乗せることを厭ってはならない事柄であろう。

〈基礎的文化情報分類一覧〉

A. シンボル

国旗、国歌、国花、神話、伝説、祝祭日、伝統的衣装、等々

B. 人的資源と自然資源

全体的地理、地域的特徴、主要都市、自然資源（植物・動物・鉱物）、気候、人口、交通システム、通信システム、マスメディア、等々

C. 家族と社会の構成

家族構成と家族生活、家族の役割、社会階級、社会組織、社会福祉、習慣と礼儀（誕生・入学・卒業・就職・結婚・出産・死・等々）

D. 宗教と哲学

宗教信仰（土着・舶来）、哲学（人生観・死生観）、諺、迷信

E. 教育

教育方針（反復丸暗記型・解法過程重視型）、義務教育（含む高校）システム、大学、職業訓練システム

F. 芸術

美術、彫刻、工芸、民芸、建築、音楽、舞踊、劇、文学、詩、映画

G. 経済と産業

主要産業、輸出入、海外投資、家内産業、産業発達段階、産業の近代化、都市と地方の産業状況、農業（穀物・野菜・果樹・酪農・養鶏・等々）、漁業、市場システム

H. 政治と政府

政府組織、政党、政府機関（中央・地方）、政治の現況、警察機構、軍隊

I. 科学

発明と業績（過去～現在）、自然科学、医学

J. スポーツとゲーム

国家的スポーツ（固有・借用）、現代世界のスポーツ、伝統的な子供の遊び

K. 食物

L. 国語

公用言語、地域言語、標準語、方言

ちなみに報告者が提示したアンケート例については「付録 2－5」 pp. 360～361 を参照のこと。

⑤“Ideas for Teaching Speaking and Listening”

ここでは「話す」「聴く」能力を養成するためにビデオテープやオーディオテープをどのように使うのが有効かが話し合われた。素材としてはビデオテープの場合にはテレビのニュースあるいは映画が、オーディオテープの場合には歌、短編小説あるいはラジオのニュースがよかろうとのことであった。ただいずれにしてもテープの編集やテキスト作りには結構な労力を要すようである。

I. オーディオテープで歌を素材にする場合。反復の多い歌、風俗習慣の反映されている歌、典型的な言い回し・現代的な言い回しの豊富な歌が望ましいことは言うまでもなからう。

(イ)歌詞テキストを素読し、内容と筋の展開を把握させる。

(ロ)簡単な語句を虫食いにしたテキストでテープを聴きながら空欄を埋めさせる（名詞だけあるいは動詞、形容詞、副詞だけを虫食いにするといった数種類のテキストを用意するのがベターと思われる）。

(ハ)歌詞テキストを精読し、何度か音読させながら発音指導をする。

(ニ)フレーズあるいは反復センテンスを虫食いにしたテキストでテープを聴きながら空欄を埋めさせる（ここでもまた虫食い部分を変えた数種類のテキストを用意するのがベター） 実例については「付録 2－6」 pp. 362 参照のこと。

II. オーディオテープでニュースを素材にする場合。

(イ)特定のトピック（天気予報、サッカー、時期大統領選、コソボ問題、等々）を選び（1～5分）、テキストを読みながらそのトピックに固有な語彙や言い回しに注意を払う。

(ロ)テキストを見ながらテープを何度か聴く。

(ハ)虫食いにしたテキストを与え、テープを聴きながら空欄を埋めさせる（虫食い部分が大小の複数のテキストを用意するのがベター）。

(ニ)テープだけを聴かせ、内容についての質問に答えさせる。

(ホ)同じトピックのバリエーションで(イ)と(ニ)の行程を繰り返す。

Ⅲ. ビデオテープでニュースを素材にする場合。オーディオテープでニュースを素材にする場合に準じる。

Ⅳ. ビデオテープで映画を素材にする場合。

(イ) まずは映画全体を見せ、映画のテーマや感想について述べさせる。

(ロ) 5 分ぐらいの適当な対話場面をいくつか編集しておく。

(ハ) 編集した最初の部分を音声抜きで見せ、次のような問いに対する答えを推理させる。

1. Кто эти люди?

2. Какие между ними отношения?

3. Что они делают в этой квартире? Почему они здесь?

4. Чем кончится эта история?

(ニ) 編集した最初の部分を音声入りで見せ、(ハ)の問いに対する答えを述べさせる。

(ホ) 編集した最初の部分のシナリオを読ませ、同時にその部分を音声入りで見せ、再び(ハ)に対する答えを述べさせる。

(ヘ) 編集した 2 番目の部分を音声抜きで見せ、次のような問いに対する答えを推理させる。

1. Что происходит? Почему это происходит?

2. Что они делают? Почему они так делают?

3. Что они говорят? Как они говорят? Почему они так говорят?

(ト) 以下(イ)～(ホ)の手順を繰り返すが、大事なのは語彙や言い回しにをそこに込められた感情的ニュアンスまで含めて理解することであろう。つまりセリフには地位や立場、心理状態が如実に反映されているはずであるから、抑揚や間の取り方にまで気を配って理解するということがある。そうした学習は、人物の表情や身振り手振りが目の当たりにできるビデオの方が、本やオーディオテープの場合よりも効果的であるように思われる。

(チ) 時間が許すなら、学習した映画の場面を生徒自身に役を割り振って再

現させてみるのがいいだろう。その際、役を割り振られた生徒にこう演じたいという希望があれば、その当否について参加者全員で議論するのも有益であろう。

（実例については「付録 2 — 7」 pp. 363～365 参照。またここでは具体的に言及していないが、画面を消し、音声だけでシーンを再現させる方法も活用できるであろう）

V. 報告の途中「作文」の授業資料についても触れられたので、唐突ながらここにその実例を 1 部紹介しておこう。

1. You met recently Russian and liked him/her/. Ask him/her/to go out with you by letter.
2. You live in the dorm with a roommate that you do not like. She/He/has a terrible character! Write a letter, why you want to switch the room and what kind of person you would like to live with : a) to your friends, b) to the administrator.
3. You are going to Russia to study at a Russian Language Program. You will live in a Russian family. In your letter of application, you need to describe the people you would like to live with.
4. Make a sociological survey: which type of character is the most popular with the students of your group? a) write down the questions you need to ask; b) summarize and report your results.
5. Read the following story and write down your possible end of it:

Вы, наверное, знаете много детских сказок. А взрослые сказки вы читали? Вы знаете, что произошло вчера? Вчера я смотрел русский фильм! Хотите, расскажу?

Волшебник влюблен в жену, как мальчик, уже 15 лет. Но и он, и его жена знают, что она умрет, а он будет жить вечно, потому что он бессмертен. Думая об этом, он создает сказку: Чтобы создать сказку, волшебник превратил медведя в человека. Медведю совсем

не нравилась новая жизнь: быть настоящим человеком нелегко. Тогда волшебник пообещал, что медведь снова станет медведем, если принцесса влюбится в него и поцелует его. Медведь соглашается: он знает, что принцессы капризны и коварны, он их не любит.

И вот приехала принцесса. И что же? Она удивительная девушка и совсем не похожа на других принцесс. Она добрая и нежная, и медведь не может не влюбиться в нее. Встретившись с медведем, принцесса тоже влюбляется в него. Сначала медведь не понял, что она принцесса и начал ухаживать за ней. И вдруг —она захотела его поцеловать—сказала, что она принцесса! Медведь испугался: любя девушку, он не хотел превращаться обратно в медведя. Он решил уехать далеко—далеко, чтобы никогда с ней не встречаться.

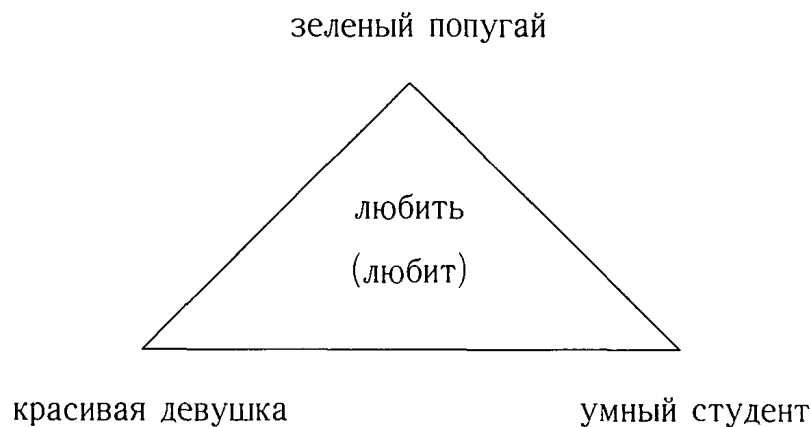
5 番目のものは、テキストの冒頭からも分かるように、実際に映画とそのシナリオも用意されているらしい。また 3～4 以外は口頭でおこなえるし、さらに 1～5 のすべてが作文の後に口頭発表させて、質疑応答、討論の材料、つまり「話す」「聴く」能力養成のための教材となりうるであろう。

⑥“Games and Simulations”

まず始めにゲームの教材としての効用について、ついでどのようなゲームをどんな場面でどんなふうを導入するかについての一般的議論がなされ、それから具体的例のデモがおこなわれた。

- I. アスペクトの練習のためのボールゲーム。最初にボールを持った人が“читать”といってボールを投げ、受け取った人が“прочитать”と答えると同時に“слушать”といってボールを投げるというゲーム。アスペクト以外の練習にももちろん応用できるだろう。
- II. 格変化の練習のためのゲーム。まずは三角形を描いたカードを用意し、

三つの頂点に「名詞」あるいは「形容詞＋名詞」を書き込んでおいてシャッフルする。次に練習する格を決めて生徒にカードを引かせる。カードを引いた生徒はそこに書かれた語あるいは語句を右回り、左回りの2回、指定された格に変化させるというもの。たとえば対格の練習の場合、“зеленый попугай”、“красивая девушка”、“умный студент”に動詞の“любит”を介在させることによって次のような文を作らせることができるだろう。



“Зеленый попугай любит красивую девушку.”

“Красивая девушка любит умного студента.”

“Умный студент любит зеленого попугая.”

“Зеленый попугай любит умного студента.”

“Умный студент любит красивую девушку.”

“Красивая девушка любит зеленого попугая.”

- Ⅲ. 単語の記されたカードを使って完結した文を作り上げるゲーム。実例は挙げるまでもなかろう。とはいえロシア語の場合、語順の問題を始め、名詞・形容詞の格変化や動詞の人称・時制の変化が多様であり、段階に応じたカード作りが必要かと思われる。つまり初期の段階ではカードの並べ替えだけで完全文ができるようにすべきであり、段階を踏んで主

格・形容詞の主格のみあるいは動詞の不定形のみを与えて、多少の変化を加えることによって初めて完全文ができあがるようにするといったことである。

- IV. “Guess Who” ゲーム。誰でも知っていると思われる人物のカードを背中に添付された生徒が、周囲の生徒とのやりとりからその人物の正体を探り当てるゲーム。カードを背負うのは参加者の数名でも、全員でもよいが、全員の方が質問と応答の両方をおこなわなければならないからより活発になると思われる。
- V. “Roll Play” ゲーム。エリツィンとクリントンといった有名人同士でもいいし、花屋と客でもよいからそれぞれの役割を設定するとともに、双方が解決しなければならない状況を与える。たとえばエリツィンは釣りに行きたいがクリントンはゴルフに行きたいとか、花屋と客の場合、客は妻の誕生日にバラを買いたい、花屋は売り切れたバラの代わりにチューリップを買わせたいといったように。
- VI. “Map” ゲーム。文字通り地図を使って一方の指示に従って他方が地図上を辿ってゆくゲーム。たとえば部屋の輪郭だけ描いたパネルとテレビや冷蔵庫など部屋にあるべきものを描いたカードを用意し、一方が自分の部屋の配置図を完成させたおいてから他方に指示を出し、他方がその指示に従ってパネル上にカードをおいていってもよいし（指示を受ける側は複数でも構わない）、また架空の市街図か島の地図を作っておき、同じ要領で犯人探しとか宝探しをするのもよからう。

IV、V、VIについては事前に特定の語彙、表現、対話例などを十分練習しておく必要があることは言うまでもないが、かなり高度な訓練であることは間違いない。とはいえ、以上に紹介したゲームは、文法事項を正確に学習するためというよりは、文法の規制にとらわれず相手に意志を伝えたいという能動的な言語運用を促すためのものであることは、きちんと押さえておく必要がある。

⑦“Using the Imagination”

ここで紹介されたの 2 つのゲームは、長さと色が様々な 1 センチ四方の角材セットを道具として使用するものである。

- I. 角材を使って何かを作りながら、それを説明するゲーム。実際に見学した限りでは、ポーランドの古都クラコフの中心部を角材で再現し、それによって街案内した人、自分の家族関係を表現し、角材によって表された人間関係を説明した人、自分の母国語と英語の語順を平行に構成し、両者の違いを説明した人などがいた。
- II. お互いに色と長さが同じ角材を同数持ち合い、相手が見えないように仕切り越しに向かい合って、一方が説明を加えながら角材を組み立て、もう一方は見えない相手のその説明に従って自分の角材を組み立ててゆき、角材を全部使い切ったところで壁を取り払い結果を確認するというゲーム。筆者はハンガリー語の講師とペアーを組んで 8 本の角材を使ってやってみたが、結構難しいものである。

最後に感想を、誰でもが感じ、知っていて、これまで何回となく言われ、これから何回となく言われ続けるに違いないから、きつと言わずもがなの感想を、それでもせつかくだから一言なりとも記しておくことにしよう。

ここに 2 日間の教師のための講座の模様を、もしかしたらくどいと思われるほどに紹介したが、刮目するような何かがあったからではない。並べ立てた事柄の大半は、いやすべてが、言われてみれば、何だそんなこととそっぽを向かれて終わりのものかも知れない。それでもあげつらってみたのは、やはり日本のロシア語教育には能動的な能力、すなわち「話す」「書く」能力を養成するための授業が圧倒的に不足しているなあと痛感せざるをえなかったからである。確かに島国で鎖国の経験まである日本の場合、移民の国であり、ロシア語を母国語とする教師に不自由しないアメリカとは大分事情が異なるが、それでもやはりなのである⁸。従来の教育が間違っているというのではない。従来の教育を変えたら大いなる収穫があるというのでもない。そうではなくて言語教

育に不可欠な何かが、様々な必然性があったとはいえ、あまりにも等閑視され過ぎてきたのではないかということなのである。それだけのことである。

また講座自体に対しては、さらに欲を言えば、もっと初歩の段階にある学習者に対する教授法、教材を紹介してもらいたかったように思う。それぞれの教師が直面している状況は多種多様であり、それぞれの教師がそれぞれの立場に合わせて教授法、教材をアレンジしなければならないことは重々承知しながらも、日本のロシア語教育の現状を思い起こすといふ無い物ねだりもしたくなってしまうのであった。

3. ロシア語プログラム

ここでは筆者の専門であるロシア語のプログラムについて少し詳しく紹介してみることにしよう。ロシア語以外のプログラムについては、実際に見学する機会もなかったのも、スケジュール表と受講生の数を付録に収録するにとどめることにしたい（「付録3-1」pp. 365～369 参照）。

ロシア語プログラムには全部で9つのレベルと2つの特別コースが設定されている。大雑把に言って、どのレベルも週に5日（月～金）の授業で、1日の授業数は月～木曜日が6コマ（1コマ50分）、金曜日が3コマであり、また1日の授業科目は3コマが文法（読解・作文を含む）、1コマが会話、1コマがビデオやテープレコーダーを利用したラボ教室での授業あるいは音声学の授業

8 もっともアメリカはアメリカで、ロシア語を母国語とする家庭に生まれ、家庭内ではロシア語、それ以外では英語で育った人々（そうした人々のことを英語では“Heritage speaker of Russian”と呼ぶ）が問題になっているようである。つまり彼らは耳でロシア語を知っているだけなのだが、何不自由なくロシア語を話せるため、大学でロシア語を選択してもさっぱり勉強しようとはせず、ただ他の学生に迷惑をかけるだけだというのである。教師が、とりわけロシア語を母国語としない教師が、どれほど彼らがロシア語を知らず、どんなに彼らの間違いを指摘しても、真剣に勉強しようという姿勢を一向に見せないとのことである。筆者がこの問題の存在を知ったのは、さる会合（A Four Day Conference on Interaction Between Russia and American Cultures. April 22-25, 1999.）での UCLA 教授 Olga Kagan 女史の報告（“Cross Cultural Issues in Teaching Heritage Speaker of Russian”）においてである。

である（金曜日の授業は文法のみ）。したがって週に 50 分授業が 23 コマ展開されていることになる。計算上 8 週間では 184 コマになるが、最初の週のプレースメントテストとそれによるレベルの変更、各課毎のテスト、最終週の修了テストなどのために授業が費やされるので、実際に行われる授業数は 150～160 コマぐらいではないかと思われる（先に述べたようにどのレベルも 10 クレジットということは、1 クレジットがだいたい 15 コマにあたるから、150 コマ前後の授業がなされなければならない）。

夏期講座のレベルと通常の学年で開講されているスラヴ系語学・文学学科の授業との相関関係を、ロシア語の修得が中心と思われる科目に絞って概括すれば、レベル 1～2 が 1 年生用の Elementary Russian I～II および Elementary Oral Russian I～II、レベル 3～4 が 2 年生用の Intermediate Russian I～II および Intermediate Oral Russian I～II、レベル 5～6 が 3 年生用の Advanced Intermediate Russian I～II、レベル 7 が 4 年生用の Advanced Russian I、レベル 8～9 が大学院生用の Political Russian ということになる⁹。ただし通常の学年では 2 セメスターともそれぞれ、1～2 年生の場合には週に 5 コマで 5 クレジット、3～4 年生の場合には週に 4 コマで 3 クレジット、大学院生の場合には週の 3 コマで 3 クレジットであるから、たとえばレベル 1～4 と Elementary Russian I～Intermediate II の授業コマ数の比はほぼ 2：1 ということになる。したがってコマ数の上からは理論上、たとえばレベル 1 は Elementary Russian I & II を、レベル 2 は Intermediate Russian I & II をカバーできることになる。だが実際の夏期講座の授業内容あるいは進度

9 これは無論むりやり語学系の科目（50 分授業）を中心に比較を試みたものである。スラヴ系語学・文学学科にはここに挙げた科目以外にも、たとえば 2 年次には Russian Literature: Pushkin to Dostoevsky、3 年次には Tolstoi and Dostoevsky、4 年次には Reading in Russian Literature および Reading in Russian Culture, History and Society、大学院には 18th Century Russian Literature, 19th Century Russian Literature, Russian Drama といった科目（75 分授業）が展開されている。ちなみに Political Russian は 4 年次でも履修可能である。また 4 年次あるいは大学院で始めてロシア語を履修する学生のために Russian for Graduate Students I～II という科目があり、レベル 1～6 をカバーしているようである。

は、レベル 1 は Elementary Russian I と同じく 0 地点から始めてそれを終了次第 Elementary Russian II をできる限り進み、レベル 2 は Elementary Russian II の開始地点から始めてそれを終了次第 Intermediate I をできる限り進み、レベル 3 は Intermediate I の開始地点から始めてそれを終了次第 Intermediate II をできる限り進み、そしてレベル 4 は Intermediate II の開始地点から始めてそれが終了次第 Advanced Intermediate Russian I をできる限り進む、というふうに予習、復習が重なり合うようになっている。ただし、この構図がきれいにできあがるのは同一の教科書 (“*Russian Stage I & II*”) を使用しているレベル 4 の前半まで、すなわち Intermediate II の内容が終了するところまでで、それ以降は各講師がレベルに合わせた教材をそれぞれ自分なりにアレンジして授業を進めている。

授業に実際に参加してみた第 1 印象から言えば、初級にあたる 1～2 レベル、中級にあたる 3～4 レベルともに教科書が厚く網羅的なこともあって進度が速く、ビデオを始め教授法に工夫が凝らしてあるとはいえ、予習復習ともに受講生の負担はかなりのものではないかというのが正直な感想である。準上級にあたる 5～6 レベルの場合、学習している内容そのものについては札幌大学の 3 年次程度の授業と変わりはないものの、授業自体がロシア語で展開されているため、受講生の聴く・話す・書くという能力が意図せずして訓練されてしまっている点に差異を感じざるを得なかった。7～9 レベルの場合は口頭およびレポート形式による新聞記事のブリーフィング、小説の主人公の心理分析、詩の分析などで、これまでのところ残念ながら日本ではお目にかかれない授業風景ではないかと思われる。

さてそれではそれぞれのレベルをさらに詳細にわたって見てゆこう。

①講師②時間割③教科書④受講者の人数および授業という順番で紹介し、そこで言及しきれない部分は⑤メモに記すことにしよう。

なお最初に断っておかなければならないのは、6 月 21 日 (月)～25 日 (金) に、全レベルを一堂に会しての「音声学」の講義がおこなわれたことである (11～12 時)。母音の文字と音素、発音から始まって、子音の文字と音素、発

1999 年度インディアナ大学スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座（鈴木淳一）

音、母音と子音の音変化等々、イントネーションに到るまでの、日本ではおそらくロシア語学を専門にしない限りは必要とされないほどの、詳細にわたる講義であった。驚いたのは音声字母による発音表記を覚えるよう指示が出されたことである。レベル 1 はこの講義以外に音声学の授業はないが、レベル 2 以上の受講生はこの講義以降毎週 2 コマの授業があり、課題として与えられたロシア語テキストを実際に読んでテープに吹き込み、それを講師が聴いてそれぞれの発音をチェックする作業と、同じロシア語テキストを音声字母のよって表記練習する作業が交互になされている。ちなみに講義開始にあたって出席についての注意が配られたのは御愛敬で、いずこも状況は似たり寄ったりかと苦笑してしまった。参考までにこの注意も、音声学の第 1 回目の課題と一緒に付録に掲げておこう（「付録 3－2」 pp. 369～370 参照）。

【レベル 1】

①文法講師：Saera Yoon（インディアナ大学大学院生）

会話講師：Elizabeth Roby（インディアナ大学大学院生）

②時間割

8:00	文法	月～金
9:00	LL 授業	月～木
10:00	文法	月～金
11:00	文法	月～金
12:00	昼食	
14:00	会話	月～木
15:00	終了	

（注：レベル 1 は、音声学の授業がない代わりにかどうかは分からないが、他のレベルよりも 4 日早い 6 月 14 日にスタート）

③教科書

ACTR, *Russian Stage One. Vol. I&II* (Kendall/Hunt Publishing Company)

Bryn Mawr College および University of Maryland のロシア語関係者が中

心となって ACTR (American Council of Teachers of Russian=アメリカロシア語教師連盟) によって編纂されたこの入門・初級者用の教科書は、長大なシリーズものの巻頭を飾るものである。「序」によればこのシリーズは中級者用の教科書 (*Russian Stage Two, Russian Stage Three*) を経て、上級者用の主題別の教科書 (*Business Russian, Political Russian, Scientific Russian, Years of Change, Reading for Close Analysis* and others) に到って完結することになっている。

それぞれの教科書のレベルは、ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages=アメリカ外国語教育連盟) のによって提案・推奨されているレベル分けガイドライン (ACTFL Russian Proficiency Guideline) に基づいて決定されているといい、*Russian Stage One* はそのガイドラインのいう初級 (Novice) にあたるという。ちなみにそのガイドラインによればレベルは次のように分類されている。大きくは4段階、全部で9段階である(「付録3-3」 pp. 370~388 参照)。

- (1) Novice : Novice-Low, Novice-Mid, Novice-High
- (2) Intermediate : Intermediate-Low, Intermediate-Mid, Intermediate-High
- (3) Advanced : Advanced, Advanced-Plus
- (4) Superior

計画通りなら *Russian Stage Two* と *Russian Stage Three* は中級 (Intermediate) に、主題別の教科書は上級 (Advanced) および超上級 (Superior) に相当することになるだろう。

インディアナ大学の夏期講座も少なくとも形式上はこのガイドラインに則って設定されていることになるわけで、レベル1はガイドラインのいう Novice-Low を目標にしていることになる。もっとも実際には、先に述べたとおり、夏期講座の時間割は通常のセメスター2回分なので、レベル2の部分、つまりガイドラインのいう Novice-Mid までをこなしていることになる。つまり、またしても形式上はであるが、インディアナ大学の通常の9セメスターはガイド

1999 年度インディアナ大学スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座（鈴木淳一）

ラインのいう 9 段階に合致しており、もしも入学直後から履修し続ければ 1 年生の 2 セメスターで Novice-Low と Novice-Mid、2 年生の 2 セメスターで Novice-High と Intermediate-Low、3 年生の 2 セメスターで Intermediate-Mid と Intermediate-High、4 年生の 2 セメスターで Advanced（と Advanced-Plus）、大学院で（Advanced-Plus と）Superior をマスターするということになるだろう。

ACTFL ガイドラインと夏期講習のレベル、それに通常の学期のロシア語科目との関係については、叙述の稚拙はさておいても、叙述しただけでは複雑で分かりにくいと思われるので、多少は見易いように、一覧表にして巻末に掲げておこう（「付録 3－4」 pp. 389 参照）。

さて教科書の *Russian Stage One. Vol.I&II* であるが、それぞれがテキスト、問題集、オーディオテープ、ビデオテープの 4 つから成り（アメリカの青年がモスクワを訪ね、様々な経験を重ねるというビデオテープを中心に全体が構成されている）、さらに教師用マニュアルやらドリル用のオーディオテープや CD ロムがついている。

<Vol.1>

Textbook 1 (Introductory Unit and Units 1-7/pp.505)

Workbook 1 (Homework Exercises to accompany Textbook 1/pp.270)

Audio Tape 1 (Interactive audio and drills)

Video Tape 1 (Video Program, Units 1-7)

<Vol.2>

Textbook 2 (Units 8-14/pp.436)

Workbook 2 (Homework Exercises to accompany Textbook 2/pp.268)

Audio Tape 2 (Interactive audio and drills)

Video Tape 2 (Video Program, Units 8-14)

<Instructor's Manual>

Instructor's Manual (Introductory Unit and Units 1-14, Tests, Video Script, Learning Strategies commentary)

Institutional Audio Tapes (Introductory Lesson 1-14)

CD ROM (Interactive Drills 1-14)

また達成予定時間数は〈Vol.1〉の場合、最初のユニットが5日、ユニット1～7がそれぞれ9日の全68日（すなわち50分の授業68回分）であり、〈Vol.2〉の場合はユニット8～13がそれぞれ9日、最後のユニット14が5日の全59日（すなわち50分の授業59回分）である。進度のイニシアチブを取るの「文法」の授業であるが、文法の授業は1日3コマで週に5日、全部で正味8週であるから約120コマ前後行われることになり、ほぼちょうど〈Vol.1〉〈Vol.2〉が終えられるような仕組みにはなっている。それでもかなりハードなスケジュールであることは確かである。それこそ毎日ロシア語漬けになって、授業以外に予習、復習、宿題をこなさなければならず、相当の覚悟で望まない限り、与えられる授業量に寄り掛かって受動的な態度で望んでは、時間と金の無駄使いに繋がってしまうであろう。

④受講者の人数および授業

受講生は7人。

考古学専門の初老の学者や、イギリスの大学から留学しているという日本人が一人混じっていた。授業は文法、会話、LLのすべてが教科書に基づいて行われ、学生の達成度を測るチェックテストも教師用マニュアルの指示通りに行われていた。

⑤メモ

唯一このクラスだけが、英語による説明がふんだんに取り入れられていた。

【レベル2】

①文法講師：Emily Diehl（インディアナ大学大学院生）

会話講師：Yekaterina Vernikov（インディアナ大学大学院生）

ビデオ講師：Mark Trotter（?）

②時間割

8:00 ビデオラボ 火・木

8:00	音声学	月・水
9:00	文法	月～金
10:00	文法	月～金
11:00	文法	月～金
12:00	昼食	
14:00	会話	月・火
15:00	会話	水・木
16:00	終了	

③教科書

ACTR, *Russian Stage One. Vol.II* (Kendall/Hunt Publishing Company)

ACTR, *Russian Stage Two* (Kendall/Hunt Publishing Company)

Russian Stage One. Vol.II はレベル 1 の項で述べた通り、全 7 ユニット 59 日（コマ）で初級を締めくくる内容になっている。つまり ACTFL のガイドラインの言う Novice-Mid から Novice-High までをカバーしていた。

それに対し *Russian Stage Two* は中級の前半を、つまり Intermediate-Low から Intermediate-Mid までをカバーしている。語彙の次元に限って言えばそれは、初級の段階で習得された 800～1,000 語に、新たに 900 語前後を追加した内容だという。*Russian Stage Two* はアメリカの学生グループがモスクワに留学し、様々な経験を重ねる様子を収めたビデオを中心に、次のような構成になっている。

< 1 > Textbook (Урок 1-10/pp.422)

< 2 > Workbook (Урок 1-10/pp.148)

< 3 > Supplemental Grammar Keys: Dialogue Guide (Устные упражнения: Урок 1-10, Письменные упражнения: Урок 1-10/pp.127)

< 4 > Grammar for Communication: Analysis and Commentaries (Урок 1-10/pp.148)

< 5 > Video Tape (Урок 1-10)

< 6 > Audio Tape (Урок 1-10)

また各課それぞれに必要な授業数は13～14コマ（1コマ50分）と見込まれているから、単純計算では全10課を終了するには130～140コマ必要なことになる。

さてレベル2の場合、文法と会話の授業を進度の目安に取れば（ビデオラボと音声学の授業も有機的に組み込まれているが、進度の目安にはならない）、週に19コマで実質7週として、全部で約133コマ展開されていることになるから、その達成目標はおよそ *Russian Stage One, Vol.II* のすべてと *Russian Stage Two* の5課までということになるだろう。しかし実際には、学生の質の問題もあって、なかなか目標を達成できないようである。

④受講者の人数および授業

受講者数6人。

全ての授業が教科書に沿って展開されている。前項で紹介した教科書の内訳から言えば、文法は〈1〉〈2〉、会話は〈3〉と〈4〉、ビデオラボは〈5〉、音声学は〈6〉におもに依拠して授業が展開されているということである。学生の達成度を測るチェックテストは、*Russian Stage One* の場合には教師用マニュアルに則って、また *Russian Stage Two* の場合には〈1〉と〈2〉を（ときに〈3〉、〈4〉）利用しておこなっていた。

⑤メモ

このレベルから授業は原則的にロシア語だけでおこなわれている。といってももちろん複雑な文法事項の説明は英語でなされるわけだが、そういった説明は極力抑えて、習うより慣れろ式に授業は進んでいるように見えた。

【レベル3】

①文法講師：Devon Sanner（インディアナ大学大学院生）

会話講師：Yekaterina Vernikov（インディアナ大学大学院生）

ビデオ講師：Mark Trotter（？）

②時間割

8：00 ビデオラボ 月・水

8:00 音声学 火・木

9:00 文法 月～金

10:00 文法 月～金

11:00 文法 月～金

12:00 昼食

(第1グループ)

14:00 会話 水・木

15:00 会話 月・火

(第2グループ)

16:00 会話 月～木

③教科書

ACTR, *Russian Stage Two* (Kendall/Hunt Publishing Company)

レベル2の項で見たように、*Russian Stage Two* は全10課で、終了に必要な授業数は130～140コマであった。ここでもまた授業進度の目安となるのは文法と会話だとすれば、実質7週間で約133コマ展開されていることになり(週19コマ×7週)、計算上は *Russian Stage Two* のすべてがちょうど終われるようになっている。つまり ACTFL のガイドラインの言う Intermediate-Low から Intermediate-Mid までをカバーしているわけであるが、レベル2が *Russian Stage Two* の5課まで進み、レベル4がそれを引き継ぐ形で6課から始めることを考えれば、レベル3はレベル2とレベル4の復習と予習を兼ねた存在であるとも、無ければ無くともよい存在であるとも言えよう。

④受講者の人数および授業

受講者数11人。

数が多いのか会話の時間が2つのグループに別れる以外はレベル2と同様、全ての授業が教科書に沿って展開されている。先に紹介した教科書の内訳から言えば、文法は〈1〉〈2〉、会話は〈3〉と〈4〉、ビデオラボは〈5〉、音声学は〈6〉におもに依拠して授業が展開されているということである。チェックテストもまたレベル2の場合と同様であった。ここでもまた進度については

学生の質によるところ大であり、その年々で教科書の最後まで到達できたりできなかつたりだということである。

⑤メモ

レベル 2 に記した以外に特筆すべきことなし。

【レベル 4】

①文法講師：Konstantin Kustanovich (Vanderbilt University)

会話講師：Yekaterina Vernikov (インディアナ大学大学院生)

ビデオ講師：Mark Trotter (?)

②時間割

8:00	文法	月～金
9:00	ビデオラボ	月・水
9:00	音声学	火・木
10:00	文法	月～金
11:00	文法	月～金
12:00	昼食	
16:00	会話	月～木
17:00	終了	

③教科書

ACTR, *Russian Stage Two* (Kendall/Hunt Publishing Company)

S. F. Rosengrant, E. D. Lifschitz, *Focus on Russia: An Interactive Approach to Communication. Second Edition* (John Wiley & Sons, Inc.)

N. Baranskaya, *Just Another Week: Неделя как неделя* (Slavica Publishers)

レベル 4 は ACTFL のガイドラインの言う Intermediate-Mid & High にあたるが、*Russian Stage Two* の 6 課から始めて 10 課までが終わり次第、次に 2 冊に移行し、その完了を目指している (ただし *Just Another Week* は予備の予備とのこと)。 *Russian Stage Two* の 6～10 課を終了するには、先に述べ

1999 年度インディアナ大学スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座（鈴木淳一）

たようにのべ 65～70 コマ要するが、文法と会話が週に 19 コマあるから、質のいい学生が集まれば 3 週で、たとえ質の余りよくない学生が集まったとしても 4 週で終わられる計算になろう。したがって *Focus on Russia* (pp.370) には 4～3 週（76～57 コマ）が割り当てられることになり、このテキストは 12 章立てであるから（1 章平均 25 ページ）、1 章につき 5～6 コマのペース（3 日で 2 章のペース）で消化してゆくことになろう。しかしここで実際に達成されるのは Intermediate-Mid、あるいはそれにプラスアルファした段階までと考えるのが妥当ではなかろうか。

④受講者の人数および授業

受講者数は 9 人。

筆者は *Russian Stage Two* の段階しか見学していないが、講師も認めるように学生の質がふるわず、4 週かけても 10 課まで辿り着けないのではないかと思われた。この段階までの授業はレベル 2～3 と同様、全ての授業が教科書に準拠しておこなわれていた。教科書が *Focus on Russia (packaged with student cassette)* に移行した段階では、文法と会話の授業は打ち合わせをしながらやってゆくということであり、またビデオと音声学の授業についてはコマ数が少ないこともあって、*Russian Stage Two* に準拠しつつ、不足分はそれぞれが教材を用意するとのことであった。

⑤メモ

Russian Stage One, Two を教科書として授業が進められる前半は、レベル 1～3 同様各授業に有機的関連性が認められるが（実態がどれほど計画性を反映実現したものかは別として）、後半となると各授業の有機的関連性は稀薄であるように思われる。Intermediate-Mid までで 1,700～1,900 の語彙があるとする *Russian Stage Two* の「序」がかりに正しいとすれば、あるいはそれ以上の教育は、学生自身の意欲にすべてがかかっているものであり、教材から教育方法まで各講師に任せて構わないという判断かも知れない。

【レベル 5】

①文法講師：Galina McLaws（元インディアナ大学スラヴ語・文学部）

会話講師：Valentina Troufanova（招聘講師：モスクワ大学文学部ジャーナリズム学科）

ビデオ講師：Mark Trotter（？）

②時間割

8：00	文法	月～金
9：00	文法	月～金
10：00	文法	月～金
11：00	音声学	月・水
11：00	ビデオラボ	火・木
12：00	昼食	
14：00	会話	水・木
15：00	会話	月・火

③教科書

〈Grammar〉

G. McLaws, *Integrated Learning Modules I-III, IV-VI* (Focus Publishing)

G. McLaws, *An Overview of Russian Cases* (Focus Publishing)

G. McLaws, *A Handbook of Russian Verb Morphology* (Focus Publishing)

C. Gribble, *Russian root List* (Slavica Publishers)

〈Conversation〉

V. Tumanov, *Listening to Okudzhava: 23 Aural Comprehension Exercises in Russian* (Focus Publishing)

（その他授業中に配布）

文法の教科書である *Integrated Learning Modules* は I－III、IV－VI、VII－IX、X－XII の 4 分冊から成り、それぞれがほぼ ACTFL ガイドラインに記されている Intermediate-Mid、Intermediate-High、Advanced、Advanced-Plus に相当するとみなしてよいと思われる。したがって I－III（pp.81）、IV－

VI (pp.72) が使用されるこのレベルでは Intermediate-Mid, Intermediate-High が到達目標ということになる。この教科書が Module 毎にひとつの短編とそこで焦点化された文法問題（格の用法、動詞の体の使い分け等々）の関する語彙論的、形態論、統語論的解説および様々な練習問題から構成された総合的な教科書であるのに対して、*An Overview of Russian Cases* (pp.98) と *A Handbook of Russian Verb Morphology* (pp.60) はいわば *Integrated Learning Modules* を補完する特化型の解説付き問題集であり、*Russian root List* (pp.62) は能率的な語彙力向上のための参考書である。

会話の教科書は副題が示すように、オクジャワの歌 23 曲を素材に取り上げたもので、曲毎に — (1)歌詞のほとんどがブランク(2)歌詞の 1 部がブランク(3)歌詞についての解説、質問、歌詞と歌詞についての解説を参考にしての作文問題 — という形で構成されている（1 曲につき 6 ページで、付属の CD にはさらにもう 2 曲吹き込まれている）。Advanced のためには(1)と(3)を、Intermediate-High のためには(2)と(3)を使用するようにということであろう。進度は 1 コマ 1 曲のようである。

④受講者の人数および授業

受講者数は 10 人。

文法の授業は 1 週間毎に各曜日の McLaws の 3 冊の教科書の進度ならびに宿題、チェックテストの範囲の一覧表が配られ、それに沿って進められていた。その進度表によれば 1 週間にだいたいひとつの *Module* と *Overview* および *Handbook* のその関連部分がこなされることになっている。授業ではいわゆる文法問題が筆記、口頭でやりとりされるのみならず、主人公の心理分析についての口頭での発表と質疑応答があったり、提出されていたレポートに関する講評と質疑応答などが矢継ぎ早におこなわれていた。

会話の授業は教科書に準拠しつつ、それぞれの曲についての質疑応答を中心に進められていた。

ビデオラボと音声学については残念ながら授業を見学することができなかったが、ビデオはテレビか映画の 1 場面を編集して教材としており、また音声学

は短いロシア語テキストの音声記号転記と講師によるそのチェック、テキストの朗読吹き込みと講師によるそのチェックを中心に授業が展開されているとのことであった。

⑤メモ

このレベル前後になると、ロシア語による文法事項の説明に対する学生側の反応も大分スムーズであるように見えた。

ちなみに「意欲があってできる学生を相手にするのは、たとえどんなに手間がかかろうと喜びでしかないが、その反対となると人生を浪費している気分になる」と、ここ5～6年のロシア語学習者の数的凋落とそれに伴う質的凋落を嘆く McLaws 女史の言葉に、何処も事情は同じと思わずに入られなかった。

またこのレベルで初めて次の辞書を購入するようにとの指示が出されていた。

Russian-English/English-Russian Dictionary (Oxford)

【レベル6】

①文法講師：Evgenia Gavrilova（招聘講師：モスクワ大学文学部ジャーナリズム学科）

会話講師：Valentina Troufanova（招聘講師：モスクワ大学文学部ジャーナリズム学科）

ビデオ講師：Mark Trotter（?）

②時間割

8:00	文法	月～金
9:00	文法	月～金
10:00	音声学	火・木
10:00	ビデオラボ	月・水
11:00	文法	月～金
12:00	昼食	
14:00	会話	月・火

15:00 会話 水・木

③教科書

〈Grammar〉

G. McLaws, *Integrated Learning Modules IV-VI, VII-IX* (Focus Publishing)

F. J. Miller, *Reading and Speaking about Russian Newspapers & Workbook for Reading and Speaking about Russian Newspaper* (Focus Publishing)

〈Conversation〉

E. Tall, V. Vlasikova, *Let's Talk about Life!* (John Wiley & Sons, Inc.)
(その他授業中に配布)

文法の教科書の *Integrated Learning Modules IV-VI* (pp.72)、*VII-IX* (pp.40) は、先に説明したように、ACTFL のガイドラインに言う Intermediate-High と Advanced にあたる。またこの 2 冊の教科書が終了次第（3 週間の予定）導入される *Reading and Speaking about Russian Newspapers* (pp.238) & *Workbook for Reading and Speaking about Russian Newspaper* (pp.98) はほぼ Advanced から Advanced-Plus に相当すると考えられる。前者についてはレベル 5 を参照していただくとして、後者の教科書について若干触れておこう。題名に示される通り、新聞記事に題材を求めたこの教科書は（記事の日付は 1985～1989 年と今となっではいささか古いが）、読本としても会話教材としても使用できるように、語彙や表現、あるいは形態論や統語論にかかわる説明や練習問題が内容にかかわる質疑応答と絡まり合うようにして構成されている（全 20 課で、1 課平均 12 ページ前後）。面白いのは次のような辞書の使用が求められるとともに、その使用法の指導までが教科書の 1 部として組み込まれていることだろう――

Ожегов. *Словарь русского языка*;

П. Н. Денисов и В. В. Морковкин. *Учебный словарь сочетаемости слов русского языка* (Москва, Русский язык, 1978);

V. Andreeva-George and V. Tolmacheva. *The Russian Verb: Preposi-*

tional and Non-Prepositional Government (Moscow, Russky Yazyk Publishers, 1987)

本講座ではこの教科書に4週間を割り当てることができるから、文法の授業1日3コマで1課ずつこなしてゆくことになるだろう。

会話の教科書である *Let's Talk about Life!* (packaged with student tapes/pp.274)はACTFLガイドラインのIntermediate-HighからAdvanced向けのものである。全9課、1課平均28ページ前後で、各課毎にテーマが決まっており、その構成は——(1)典型語彙と対話例(2)4～5つの読本用テキスト(3)テープに吹き込まれたインタビューに関する質疑応答(4)総括——となっている。「序」によれば、(1)に50分の授業1コマ、(2)に3コマ、(3)に1コマ、(4)に1コマが見込まれているから、すべてを終了するには54コマ必要になるが、(2)のテキスト数を制限するかあるいは(4)全体を削れば1課について4～5コマ、全体で36～45コマで済ますことも可能であるし、いずれにしても重要なのは学生に積極的に話させることだとしている。会話の授業は週に4コマで実質7週、すなわち全28コマであるから、かなりの部分が省略されるかあるいは家庭学習の形でおこなわれることになるだろう。

④受講者の人数および授業

受講者は8人。

Modules を使った文法の授業はほぼレベル5の場合に準じているが、ややペースが速く(予習の予告の他に提出すべき宿題がレベル5よりも多い)、複雑な文法問題などが続く場合には、面白い新聞記事を素材にしたロシアのジャーナリズム事情の説明や質疑応答によって、興味を繋ぎとめるとともに次の教科書への導入としているようであった。

会話の授業は、前項で述べたように1課に3～4時間しか割けない事情からか、まず始めに当該の課全体についての学生側からの質問と講師のそれに対する応答から始まり、当該の課に不可欠な語句や表現の練習があり、それが一段落すると(2)のテキスト内容についての要約と質疑応答がなされ、そのあと参加者全員で討論するという形式であった。テーマに応じた作文の宿題も課されて

いるようであった。

ビデオラボと音声学についてはレベル 5 を参照のこと。

⑤メモ

レベル 5 にしろ 6 にしろ、学生は概してロシア語を、その正確さに個人差はあるにしても、よく話そうとする。授業がすべてロシア語でおこなわれており、ロシア語で反応せざるを得ないという状況が、そして国民性が、そうした積極性に大いに影響していることはもちろんであるが、もしかしたら語彙の少なさや文法的正確さへのこだわりを捨てて、とにかく話すという訓練を積んでいるためではなかろうか。ふとそうした訓練のことが、頭をよぎったことだった。

【レベル 7】

①文法講師：Alla Smyslova (Bryn Mawr College)

会話講師：Valentina Troufanova (招聘講師：モスクワ大学文学部ジャーナリズム学科)

ビデオ講師：Mark Trotter (?)

②時間割

8:00	文法	月～金
9:00	音声学	月・水
9:00	ビデオラボ	火・木
10:00	文法	月～金
11:00	文法	月～金
12:00	昼食	
16:00	会話	月～木
17:00	終了	

③教科書

<Grammar>

Handouts in Class

F. J. Miller, *A Handbook of Russian Prepositions* (Focus Publishing)

Ожегов. *Словарь русского языка*

<Conversation>

F. J. Miller, *Reading and Speaking about Russian Newspapers & Workbook for Reading and Speaking about Russian Newspaper* (Focus Publishing/pp.238; pp.98)

Le Fleming, *A Guide to Essay Writing in Russian* (Focus Publishing/pp. 223)

ACTFL ガイドラインの Advanced にあたるレベル 7 では、文法の授業の場合、特定の教科書は使用されず、教材は授業に先立ってあるいは授業中に講師から配布されていた。教材は文法の練習問題から新聞・雑誌の記事、小説と多岐にわたっているが、文法的なテーマとしては動詞の活用、特に動詞の体と動詞と前置詞の関係が取り上げられていた。長時間かかるような教材は家庭学習に比重を置き、授業中は短めの教材で目先を変え、飽きさせず興味を掻き立てるようにしながら、同一のテーマに多面的にアプローチするという方針のようである。したがって *A Handbook of Russian Prepositions* についても、配布する教材の合間に、予め指定しておいた関係箇所と言及し、答えさせるという使い方であった。

会話の教科書である 2 冊はともに ACTFL ガイドラインの Advanced から Advanced-Plus に相当する。前者についてはすでにレベル 6 の文法教科書の項で紹介した。会話の授業はほぼ 30 コマと考えられるから、全 20 課、1 課平均 12 ページのこの教科書は、それだけで、練習問題編を考慮に入れたらなおさら、講座の全期間に見合うだけのボリュームを持っていると言える。後者は、エッセイ全般に共通の基本的な語句や表現を扱った章を除けば、全 10 課（ロシアに関する 10 のテーマ——地理、人口問題、民族問題、環境問題、教育、宗教、女性の権利、犯罪、労働問題、政治——を扱っている）1 課平均 20 ページの分量である。また各課は、それぞれのテーマに沿ったトピックが 3 つ選ばれており、トピック毎に——(1)典型的語句と表現の解説(2)実際の論文

(3)実際の論文に関する文法問題と質問、および所与の情報に基づいたエッセイの作成——という形で構成されている。予習が徹底されればという条件はつくにしろ、1トピックにつき50分授業1コマ、すなわち1課につき3コマが予定されているというから、この教科書もまた単独で講座の全期間にほぼ見合うものであると言えよう。

④受講者の人数および授業

受講者は5人。

教科書の項で述べたように、文法の授業では1週間の予定表とともに教材がその都度配布されていた。たとえば6月のさる日の授業（3コマ）では体に関する練習問題、新聞に関わる基本的な用語集が配布され、それを教材に体の使用に関する質疑応答、実際の新聞を見ながら、新聞の名称、全国紙か地方紙か、日刊紙か週刊紙か季刊紙か、発行部数と発行日と値段、どんな場所にどんな記事が載っているか、目抜き記事は何でその作者は誰か、漫画や風刺は誰あるいは何についてのものか、どんなテレビやラジオの番組があるか、天気予報はどうなっているか、どんな広告があるか、運勢や人生相談のコーナーはあるかなどの質疑応答が口頭でなされていた。さらには Лев Толстой «Кавказский Пленник» を最後まで読み終わるように指示が出され、作家と作品についての感想と主人公の人物像の外見描写がレポート課題とされていた。レポートについては講師の添削後、書き直した上で教室で発表し、互いに批評し合うとのことであった。トルストイの小説についてはまた、やがて講師から配られるはずのテストのための質問一覧に答える準備をしておくようにという指示も出されていた。

会話の授業では、これまた飽きさせないようにするためか、2冊の教科書を交互に使い、教科書の順序にはこだわらずに、予め抜粋した予習箇所を指示しておいて、いきなり口頭による質疑応答がなされていた。会話の授業といいながら、教科書にある文法的な練習問題を口頭でこなしたり、また週末毎にエッセイの作成の課題が出されてもいた（翌週の月曜に提出）。

ビデオラボと音声学の授業についてはレベル5～6を参照のこと。

⑤メモ

当然なのかも知れないが、休み時間に学生同士でもつねにロシア語を使うようにしているのには驚かされた。

【レベル 8 ～ 9】

①文法講師：Anna Sharogradskaya (Национальный Институт Прессы)

会話・ビデオ講師：Vladimir Mishin (亡命ロシア詩人)

②時間割

9:00 文法 月～金

12:00 昼食

(レベル 8)

14:00 会話 月～木

(レベル 9)

15:00 会話 月～木

③教科書

Texts will be passed out in class

レベル 8～9 はそれぞれ ACTFL ガイドラインの Advanced-Plus および Superior にあたるが、教材はレベル 7 と同様、講師が必要に応じてその都度あるいは予め教室で配布していた。

文法の授業はロシア独特の文化に焦点を絞り、インテリゲンチヤ、ウーマンリブ、飲酒と料理、諺、新語、隠語、mat、ロシアとアメリカ、ロシアと日本等々などのテーマに沿って、新聞・雑誌の記事から小説まで様々な教材が山のように配られていた。

また会話の授業では前日のテレビのニュースを講師が紹介したり（キャンパス内で見られるテレビにはロシア語放送のチャンネルがひとつあり、その気なら終日ロシア語放送が楽しめる）、ロシアの有名な詩をプリント配布したりしていた（確かではないが、おそらくは以前ペンギンブックの一冊として出版されていたもので、その後インディアナ大学が再出版した Dimitri Obolensky

1999 年度インディアナ大学スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座（鈴木淳一）

の *The Heritage of Russian Verse: With plain prose translation of each Poem* からの抜粋)。

④受講者の人数および授業

レベル 8 の受講者は 2 人、レベル 9 の受講者は 8 人。

たとえば 7 月のある日の文法の授業では、1 コマ目は唯一の女子学生のロシアの映画史に関する口頭発表とそれに対する質疑応答（学生は各自テーマを決めて講座期間内に最低 2 ～ 3 回の口頭発表をし、質疑応答の結果を取り入れたレポートを提出しなければならない）、2 コマ目はインテリゲンチャとは何かという新聞記事と言語学者の論文、3 コマ目は Сергей Довлатов の短編 «Куртка Фернана Леже» の文化的背景と分析であった。また日本におけるプライバシーを扱った英語論文の露訳、Борис Пилиняк の日本についての短い記事と短編 «Рассказ о том, как создаются рассказы» が教材とされた日もあれば、ロシアの飲酒事情、mat 事情、Виктория Токарева のエッセイが取り上げられた日もあった。宿題も必須で、たとえばピリニャークの短編の構造と主人公像の変化についてとか、トーカレワの短編 «Счастливый конец» の題名の由来についてといったレポートが、連日のように課されるのである。「あなたはよい教師だと思うが、宿題を少なくしてくれればもっといい教師になれるのに」という学生の冗談も、冗談に聞こえないほどであった。

会話の授業は講師が適当なテレビ番組（ニュース）を選んで自分流に話し、その番組を見たかどうか、あるいはそうした事実を知っているかどうかを質問するところから始まり、意見交換に移ってゆく場合もあれば、詩を朗読し（テキストは予め渡してあったり、その場で渡したりと様々）、学生の感想を聞いたあとで、自分の解釈を素材に意見交換をして、それぞれの解釈に則って朗読させてみたりする場合もあった。

⑤メモ

講師は今年のレベル 8 ～ 9 は、教養程度から言って、ロシア語熱がピーク時のレベル 7 程度だと嘆いていたが、確かに文学的な素養、想像力の欠如、さらには正確なロシア語を話そうとする意欲という点からすれば、そう言われても

仕方がないかなという印象は免れえなかった。軍関係者らしき 3 人に加え、実用志向の参加者が多かったということであろう（レベル 7～9 の参加者で大学院を目指すものはひとりもないようであった）。それでも片親がロシア人という学生が 2 人、両親がポーランド人という学生が 1 人いたし、誰も、少なくとも筆者ほどには、ロシア語を話すことに違和感を感じてはいなかったように思う。

また例年はレベル 8 とレベル 9 は別クラスであるらしいが、今年はレベル 8 の申込者が少なかったので合併ということになったらしい。

夏期講座とは直接関係ないが、インディアナ大学のスラヴ語・文学部の関係者の話によれば、7 月の時点で 9 月から新たに大学院への進学希望者はひとりもおらず、予定されている開講授業のいくつかは開講されないのではないかとのことである。ポーランド語やチェコ語、グルジア語を学ぶものが増えつつあるとはいえ、微々たる数であり、寂しい限りだという。まさしく冷戦の解消が今となってはアメリカのひとり勝ちしか意味せず、英語以外の語学への興味も経済的繁栄あるいは軍事的脅威によってしか喚起されえないとすれば、いやはや困ったことである。

【ビジネスロシア語】

①講師：Nyusya Milman（インディアナ大学スラヴ語・文学部）

②時間割

13:00 集合 月～金

15:00 終了

③教科書

N. Milman, *Business Russian: A Cultural Approach* (Kendall/Hunt Publishing Company/pp.201)

レベル 1 の教科書の項目で述べたように、これは ACTR の長大な計画の一端を担う上級者用の教科書の 1 冊である。ビデオと組み合わせられた全 10 課（1 課平均 20 ページ前後）のこの教科書は、著者によれば ACTFL ガイドラ

1999 年度インディアナ大学スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座（鈴木淳一）

インの Advanced に位置するものであり、(1)対話(2)対話についての練習問題(3)討論のための素材(4)テキスト(5)テキストについての質問(6)テキストのについての練習問題——という構成になっている。全課終了には、週に 50 分授業が 3 ～ 4 コマ展開され、家庭での予習が 50 分授業に換算して 6 ～ 8 コマなされるとして（授業 1 コマについて 2 コマの割合になる）、14 週を要するという。つまり家庭での予習を考慮せず、授業だけで計算すれば、42～56 コマで全課をこなせることになる。夏期講座は 1 日 2 コマで 4 週間（20 日間）であるから、全部で 40 コマ展開されることになり、この教科書をほぼ終了できることになるだろう。ただし学生側は全課を修得するためには、毎日 2 コマの授業に対して、最低でも 4 コマ分の家庭学習が強いられることを覚悟しなければならないが。

④受講者の人数および授業

クレジット希望の受講者 1 人、それ以外の受講者 8 人。

残念ながら授業を見学する機会を得なかった。

【翻訳セミナー】

①講師：Anna Sharogradskaya

②時間割

13：00 集合 月～金

15：00 終了

③教科書

ロシアとアメリカの差異が浮き彫りにされているようなテキストをその都度配布、文体論を中心に授業を進めるとのことであった。上述の BUSINESS RUSSIAN と同様に ACTFL ガイドラインの Advanced 以上の学生を対象としている。

④受講者の人数および授業

クレジット希望の受講者 3 人、それ以外の受講者 5 人。

残念ながら授業を見学する機会に恵まれなかった。

〈付録 1－1〉

講座期間中に催される企画に関するプログラムは以下の通りで、講師陣がそれぞれ週の始めに情報を紹介し、聴講を促すことになっている。特に時間の明示がない限り、開始時間は午後 7 時で講義は英語が原則。

6 月 18 日(金) 開会式

講座関係者ピッツアパーティー (午後 8～10 時／野外プール)

19 日(土) ギターコンサート (ロシア語)

21 日(月) バルト三国関係ビデオ (“The Waterbird People”)

22 日(火) 講義 (ロシア語／“Postmodern Russian Politics”)

23 日(水) 講義 (“The Origin of Slavic Writing”)

24 日(木) 講義 (“Problems of Culture and Education in Independent
Central Asia”)

講義 (“Contemporary Polish Theater”)

25 日(金) ロシア関係ビデオ (“Window to Paris”)

28 日(月) 講義 (ロシア語／“Giants and Monsters”)

バルト三国関係ビデオ (“Child of Man”)

29 日(火) 講義 (“America has always been pro-Serb”)

30 日(水) 講義 (“The Role of Education in the Integration of Non-
Estonians in Estonia”)

講義 (“Health Policy in Modern Kazakhstan”)

7 月 1 日(木) 講義 (“Was it Ethnic Cleansing? The Czechs and the
Expulsion of the Germans after World War Two”)

講義 (“Turkmenistan Today”)

2 日(金) ロシア関係ビデオ (“Prisoner of the Mountains”)

3 日(土) 講座関係者ピクニック (正午～／レモン湖)

6 日(火) 講義 (ロシア語／“The New Face of Russian TV”)

バルト三国関係ビデオ (“My Cage”)

7 日(水) 講義 (“Russian Pop and Rock Music”)

- 講義（“Songs and Sorcery in the Baltic Singing Revolution”）
- 8 日(木) 講義（“Environmental and Social Disaster in the Former Central Eurasia”）
- 講義（“Eastern European Cinema”）
- 9 日(金) ロシア関係ビデオ（Mirror）
- 10 日(土) 東ヨーロッパ映画祭パート 1：ハンガリーとルーマニアの映画（正午～4 時）
- 11 日(日) 東ヨーロッパ映画祭パート 2：チェコとポーランドの映画（午後 2～6 時）
- 12 日(月) 講義（“Environmental Degradation in the Former Communist States of Eastern Europe”）
- バルト三国関係ビデオ（“Is it Easy Being Young?”）
- 13 日(水) 講義（ロシア語／“Russian Women”）
- 14 日(水) 講義（“Estonia, Latvia, and Lithuania: A Single History or Two or Three?”）
- 講義（“Georgia and the Caucasus Today”）／授業評価アンケート実施（～16 日）
- 15 日(木) 講義（“Polish Theater: Mrozek and Gombrowicz”）
- 講義（“Contemporary Uzbekistan”）
- 16 日(金) ロシア関係ビデオ（In Search of Orlovsky）
- 18 日(日) 講座関係者ピッツアパーティー
- 19 日(月) 講義（“Buy One, Get One/Two Free”）
- バルト三国関係ビデオ（“A Baltic Requiem”）
- 20 日(火) 講義（ロシア語／“Freedom of Speech a la Russe”）
- 21 日(水) ロシア・東ヨーロッパ・中央アジア・バルト三国民族楽器の演奏ならびに解説
- 22 日(木) 講義（“Modern Azerbaijan”）

CULTURE AND LANGUAGE, No. 51

- 23 日(金) ロシア関係ビデオ (“Burnt by the Sun”)／夏期講座Tシャツ
注文締め切り日
- 24 日(土) 就職説明会 (“Job Opportunities with the CIA for Slavic,
East European, and Central Eurasian Lan-
guages”)
- 26 日(月) バルト三国関係円卓会議 (“Women in the Baltic States”)
- 27 日(火) 講義 (ロシア語／“The USSR’s Environment as a Threat to
the Rest of the World”)
- 29 日(木) 講義 (“Rumania Today”)
講義 (“Language Maintenance in Kazakhstan”)
- 30 日(金) ロシア関係ビデオ (Adam’s Rib)
- 8 月 2 日(月) 講義 (“Ethnic Conflict and Non-Conflict in the Baltic States
Today”)
- 3 日(火) 講義 (ロシア語／“Russian Cartoons”)
- 5 日(木) パネルディスカッション (“Contemporary Central Asia”)
- 6 日(金) バルト三国・東ヨーロッパ・中央アジア関係コンサート
- 7 日(土) ロシア関係コンサート (午後 2 時～)
講師陣ピクニック (午後 5 時～)
- 13 日(木) 閉会式

〈付録 1－2〉

THE SUMMER WORKSHOP IN SLAVIC, EAST EUROPEAN
AND CENTRAL ASIAN LANGUAGES

AND

THE BALTIC INSTITUTE
INDIANA UNIVERSITY, BH 502
BLOOMINGTON, IN 47405

(815)855-2608

1999 MIDTERM EVALUATION FORM

0. LANGUAGE _____

LEVEL _____

1. GRAMMAR INSTRUCTOR (ALL LANGUAGES) _____

Please evaluate your morning grammar classes (teacher preparation, quality of instruction, materials used, and other considerations).

2. CONVERSATION INSTRUCTOR (ALL LANGUAGES) _____

Please evaluate your conversation instructor on the basis materials used, quality of instruction, preparation, presentation, and other considerations

3. VIDEO INSTRUCTION (ALL LANGUAGES) _____

Please evaluate your video instruction in your class on the basis materials used, quality of instruction, preparation, presentation, and other considerations. Do you feel that your ability to comprehend the language has improved?

4. PHONETICS INSTRUCTOR (RUSSIAN) _____

Please evaluate your phonetics class on the basis of materials used, quality of instruction, preparation, presentation, and other considerations.

5. BUSINESS RUSSIAN

Please evaluate the Business Russian course on the basis of materials used, quality of instruction, preparation, presentation, and other considerations.

6. FILMS, LECTURES, CONCERTS, ETC.

Please evaluate films and lectures with regard to their usefulness in studying the target language and culture.

Have you been attending these events on a regular basis? Why or why not?

7. EXTRA-CURRICULAR ACTIVITIES

The Workshop has organized (or will organize) a 4th-of-July picnic, a pizza party, and a pool party. Have you participated in any of these events? Have you found them to be well-organized and useful in meeting your fellow students? What additional extra-curricular activities would you like to see organized in the future?

8. LIVING/DINING ACCOMMODATIONS

- (1) Please evaluate your living accommodations in Eigenmann Hall.
- (2) Where did you eat most often? Why?
- (3) For Russian students: Did you eat the noon meal at Teter? How useful did you find the language tables?
- (4) For students of other languages: Was a language table organized for you? How useful did you find it?
- (5) If given the choice, would you prefer the current point system or fixed 14-meal plan (lunch and dinner, 7 days a week)?

(注：Eigenman Hall は夏期講座で使用される寮。Teter はロシア人講師とともにする昼食会場)

9. PLEASE EVALUATE THE ADMINISTRATION OF THE PROGRAM

Did you get enough information about the Workshop before you came? What additional information would have been useful? Do you have any specific suggestions for how the program can be improved? You may continue your comments on the back of this page.

<付録 2 - 1>

YOGA

All poetry is about
five hundred degrees centigrade.

Poets, though,
differ in combustibility.
Those soaked in spirits
catch fire first.

What would they be without their disease.
The disease is their health.

They burn, straw dummies,
they don't read Nietzsche,
what doesn't kill you
tempers you.

They smoulder.
They sizzle.
And yet, only a bad yogi
burns his feet
on hot coals.

〈付録 2 - 2〉

ON A SIDE STREET

On a side street
of no particular town, extending
like too long a sleeve and raveling
into other streets
of different towns, an old woman feeds
stray cats and sleepily banters

with them, her fingers licked by pink
tongues, infinitesimal orchids.

〈付録 2 - 3〉

I LIKE THAT STUFF

Lovers lie around in it
Broken glass is found in it
Grass
I like that stuff

Tuna fish get trapped in it
Legs come wrapped in it
Nylon
I like that stuff

Eskimos and tramps chew it
Madam Tussaud gave status to it
Wax
I like that stuff
(以下省略)

I HATE THAT STUFF

Humphrey Bogad died of it
People are terrified it
Cancer
I hate that stuff

Peter Sellers was laid low with it
one in five of us will go with it
heart attack
I hate that stuff

Monroe's life turned sour on it
Hancock spent his last half hour on it
sleeping pills
I hate that stuff
(以下省略)

〈付録 2 - 4〉

たとえば筆者の手元には最終的にまったく一致しない次のようなカードが残った。

(イ)悩み事

Dear Miss Lonely hearts,

I am an itinerant Latvian teacher who has to travel to little college towns and live in student housing for my living. It's not fair that students are permitted to have kids live with them but my clean and quiet cats have to stay behind. I'm afraid I'll get stressed out without them. (Perfectly Lonesome)

(ロ)返事

Дорогая Tulip Tree,

Вы плохо пишете и наверно говорите гораздо хуже. Что с вами? Какие у вас были проблемы в детстве? Вы наверно не очень красивая—не надо общаться с другими.

<付録 2 - 5>

LET'S PLAY 30 QUESTIONS

(Here are basic questions about your host country and culture. Go through the list and write down answers to as many as you can.)

01. How many people who are prominent in the affairs (politics, athletics, religion, the arts, etc.) of your host country can you name?
02. Who are the country's national heroes and heroines?
03. Can you recognize the national anthem?
04. Are other languages spoken besides the dominant language? What are the social and political implications of language usage?
05. What is the predominant religion? Is it a state religion? Have you read any of its sacred writings?
06. What are the most important religious observances and ceremonies? How regularly do people participate in them?
07. Who has the right of way in traffic: vehicles, animals, pedestrians?
08. What are the most common forms of marriage ceremonies and celebrations?
09. What is the attitude toward divorce? Extra-marital relations? Plural marriage?
10. What is the attitude toward gambling?
11. What is the attitude toward drinking?
12. Is the price asked for merchandise fixed or are customers expected to bargain? How is the bargaining conducted?
13. If, as a customer, you touch or handle merchandise for sale, will the storekeeper think you are knowledgeable, inconsiderate, within your rights, completely outside your rights? Other?
14. How do people organize their daily activities? What is the normal meal schedule? Is there a daytime rest period? What is the customary time

for visiting friends?

15. What foods are most popular and how are they prepared?
16. What things are taboo in this society?
17. What is the usual dress for a woman? For a man? Are slacks or shorts worn? If so, on what occasions?
18. What are special privileges of age/sex?
19. If you are invited to dinner, should you arrive early? On time? Late? How late?
20. On what occasions would you present (or accept) gifts from people in the country? What kind of gifts would you exchange?
21. Do some flowers have a particular significance?
22. How do people greet one another? Shake hands? Embrace or kiss? How do they leave one another? What does any variation from the usual greeting or leave-taking signify?
23. What are the important holidays? How is each observed?
24. What sports are popular?
25. What kinds of television programs are shown? What social purposes do they serve?
26. What do people normally talk about at social gatherings?
27. What games do children play? Where do children congregate? How are children disciplined at home?
28. What is the history of relationships between this country and US?
29. How many people have emigrated from this country to the US? Other countries? When?
30. Where are the important universities of the country? Is education free? Compulsory?

(これはもちろんロシア語を学ぶアメリカ人の学生に対してのアンケートである)

〈付録 2 – 6〉

1 つだけ実例を挙げておく。現代のロックグループ “Машина времени” の “Она идет по жизни смеясь” という歌である。

Она по жизни

Она легка как Нигде на

Она лицом не ударит в грязь

Испытанный способ все вопросы

Как будто

Во всем солнечный свет

Она

..... И

Не

Что прощанья, а —на раз

И лица торопятся слиться

В расплывчатый круг

Как будто И

.....

В гостях она

Где все

Удача с ней, удалась

И без исключения все с восхищением ей вслед

И не, как ночами

Та,

〈付録 2－7〉

5 分前後のシーンが 3 つほど紹介されたが、ここでは最初のシーンについての実例を挙げておこう。

СЦЕНА 1

Прочитайте сценарий, посмотрите отрывок фильма со звуком.

Какие эмоции демонстрируют персонажи? Почему вы так думаете?

Подчеркните выражение интенций: а) попытки начать контакт

б) напоминания о себе (узнавания)

в) раздражения поведением собеседника:

—защиты от назойливости;

—напоминанием о серьезности темы

—Браво—Браво. Извините, без стука. Все видел. Браво. Добрый вечер.

—Утро.

—Разве? Как-то не сообразил. А сколько сейчас?

—Петухи кричат — проснулись. Чуваки идут — согнулись.

—Действительно, позновато. То есть рановато. А у вас тут весело.

—Не желаете принять участие?

—Пока нет. Дайте сориентироваться.

—К коньячку разрешите приобщиться?

—Если вы меня спрашиваете, то нельзя.

—Почему?

—Коньяк крепит.

—Это то, что мне надо. Туркменский? Я, правда, с некоторых пор предпочитаю молдавский, ну да это все равно. А вы что, по ночам готовитесь к смотру художественной самодеятельности?

—А вы, случайно, не наш художественной руководитель?

—Случайно нет. Я прохожий.

—И куда следуете?

—Прямо. Наши тут не проходили?

—Кто это?

—Прохожий. Идет все время прямо, иногда сворачивает налево.

—А ты что, Силин, не узнаешь меня?

—Кажется, узнал. Эзопов Михаил Федорович.

—А что спрашиваешь?

—Думал, ошибся.

—Ошибаться нельзя. Начальство нужно знать в лицо.

—Как вы здесь оказались?

—Вошел и оказался.

—Как вошли?

—Ну, не в окно, конечно, а как все нормальные люди, в дверь. А ты что, Силин, меня подозреваешь в чем-то?

—Без носок.

—Ты хочешь сказать, без носков? А тебе не кажется, что ты переходишь границу дозволенного? Я же тебя не спрашиваю, почему ты при таком галстуке в таком пиджаке?

—Это не такой галстук. Это импортный галстук, я его в Хельсинки купил.

А вы—без носков в моем доме. Где вы их забыли?

—А может быть, я их не надевал! Может, я—йог.

—Кто?

—Йог. Йог я. Ты слышал о таком понятии? И вообще, Силин, ты не будешь мне указывать, в чем и как ходить.

—Насколько я помню, дверь была закрыта. Как этот гражданин попал в

мой дом?

—А может, он через трубу.

—Не надо шутить. Мне не до шуток. Шутки здесь неуместны. Я еще раз прошу мне обЪяснить, как этот гражданин попал в мой дом?

〈付録 3 - 1〉

以下にロシア語以外のスケジュールを紹介しよう。グルジア語がザカフカス諸語ではなく、東ヨーロッパ諸語の中に入っていたり、中央アジアが中央ユーラシアとなったりしているが、本質に関わりがないのでそのまま収録することにする。

(A)EAST EUROPEAN & GEORGIAN/1999/SCHEDULE OF CLASSES

①ELEMENTARY CZECH (Instructor: Hana Srpova／受講生 7 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will meet MWR, 14:00-15:00 (MWR＝月水木曜日)

Texts: M. Heim, *Contemporary Czech*

K. Von Kunes, *Contemporary Czech Practice-Grammar*
Readings and Dialogues

②INTRODUCTORY HUNGARIAN (Instructor: Gabor Molnar／受講生 6 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: To be announced in class

③(1)ELEMENTARY POLISH (Instructor: Anna Kurowska-Mlynarczyk／受講生 3 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: O. Swan, *First-Year Polish* (2nd ed.)
Grzebieniowski, *Polish-English, English-Polish Dictionary*
Polakiewicz, *Supplemental Materials for First-Year Polish*

③(2)SECOND YEAR POLISH (Instructor: Piotr Horbatowski／受講生 4 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: B. Rudzka, *Among Poles*
A. Schenker, *Fifteen Modern Short Stories*

④ELEMENTARY ROMANIAN (Instructor: Christiana Ilias／受講生 5 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: Grigori Brancusi, *Limba Romana*

⑤ELEMENTARY SERBIAN & CROATIAN (Instructor: Bogdan Rakic／受講生 5 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: Manger, *Introduction to the Croatian and Serbian Language*
Universal Croatian Dictionary (Langenscheit)

⑥ELEMENTARY GEORGIAN (Instructor: Dodona Kiziria／受講生 4 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: Aronson, *Georgian: A Reading Grammar* (Slavica)

(B)CENTRAL EURASIN/1999/SCHEDULE OF CLASSES

①INTRODUCTORY AZERI (Instructor: Shahyar Daneshgar／受講生 4 人)

Grammar: All classes meet daily, 8:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: To be distributed in class

②INTRODUCTORY KAZAK (Instructor: Talant Mawkhanuli／受講生 2 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: To be distributed in class

③(1)INTRODUCTORY TURKMEN (Instructor: Ejegyz Saparova／受講生 8 人)

Grammar: Will be arranged in class

Conversation: Will be arranged in class

Texts: To be distributed in class

③(2)INTERMEDIATE TURKMEN (Instructor: Ejegyz Saparova／受講生 3 人)

Grammar: Will be arranged in class

Conversation: Will be arranged in class

Texts: To be distributed in class

④(1)INTRODUCTORY UZBEK (Instructor: Khairulla Ismatulla／受講生 6 人)

Grammar: All classes meet daily, 9:00 to 12:00

Conversation: Will be arranged in class

Texts: K.Ismatulla, Modern Literary Uzbek

④(2)INTERMEDIATE UZBEK (Instructor: Umida Khikmatillaeva／受講生 2 人)

CULTURE AND LANGUAGE, No. 51

Grammar: All classes meet daily, 8:30 to 12:30

Conversation: Will be arranged in class

Texts: To be distributed in class

(C)BALTIC/1999/SCHEDULE OF CLASSES

①INTRODUCTORY ESTONIAN (Instructor: Piibi-Kai Kivik/受講生 3 人)

Grammar: All classes meet daily, 8:30 to 12:30

Conversation: Will be arranged in class

Texts: To be distributed in class

②INTRODUCTORY LATVIAN (Instructor: Dzidra Rodins/受講生 6 人)

Grammar: All classes meet daily, 8:30 to 12:30

Conversation: Will be arranged in class

Texts: Lelis, Basic Latvian I
Soikane-Trapane, *Latvian Basic and Topical Vocabulary*
Latvian-English, English-Latvian Dictionary (Hippocrene)

③INTRODUCTORY LITHUANIAN (Instructor: Jura Avizienis/受講生 5 人)

Grammar: All classes meet daily 8:30 to 12:30

Conversation: Will be arranged in class

Texts: *Colloquial Lithuanian* (Routledge Pub.)
Lithuanian Dictionary (Routledge Pub.)
Dambriunas, Klimas, Schmalsteig, *Introduction to Modern Lithuanian*

④BALTIC CULTURES (Instructor: Guntis Smidchens/受講生 8 人)

Grammar: All classes meet daily, 14:00 to 16:00 from June 21 to

July 16

Required Texts: V. Kelertas, *Lithuanian Prose Fiction: 1970-1990*

V. Skultans, *The Testimony of Lives: Narrative and Memory in Post-Soviet Latvia*

World Literature Today, *The Baltic Literature in the 1990s*. Spring, 1998

Recommended: Misiunas-Taagepera, *The Baltic States: The Years of Dependence, 1940-1990*

（注：Elementary と Introductory、Second Year と Intermediate は呼び名が違うだけで同じこと）

〈付録 3 - 2〉

1. Attendance policy in R434, Russian Phonetics

(Instructor Larry Richter & Assistant Lee Roby)

There are only twelve actual class sessions during the summer, so attendance is very important. Any unexcused absence will result in a lowering of the student's final grade by one-half of a letter grade (C+ instead of B-, for instance). Any more than two unexcused absences will result in a lowering of the final grade by a full letter. More than three unexcused absences will result in a final grade of F.

Being more than fifteen minutes late to class counts as an absence.

2. 次のテキストの朗読を吹き込んだテープと発音表記したレポートを提出のこと。

КАРТИНА

Захотела свинья картину написать. Подошла к забору, в грязи обвалялась, потёрлась потом грязным боком о забор — картина и готова.

Свинья отошла, прищурилась и хрюкнула.

Тут скворец подскочил, попрыгал, попищал и говорит: —Плохо, скучно!

—Как?— сказала свинья, насупилась и прогнала скворца.

Пришла индюшки, шейками покивали, сказали: —Так мило, так мило!

А индюк хлопнул крыльями, надулся, даже покраснел и прокричал: —Какое великое произведение!..

Прибежал тощий пёс, обнюхал картину, сказал: —Недурно, с чувством, продолжайте...

Но свинья даже и глядеть на него не захотела.

Лежала свинья на боку, слушала похвалы и похрюкивала.

В это время пришёл маляр, толкнул ногой свинью и стал забор красной краской мазать.

Завизжала свинья, на скотный двор побежала: —Пропала моя картина, замазал её маляр краской... Я не переживу горя!..

—Варвары... варвары... —заговорил голубь.

Все на скотном дворе охали, ахали, утешали свинью, а старый бык сказал: —Врёт она... переживёт.

(ここでは省略したが、実際のテキストには音節数にかかわりなくすべてアクセント記号がつけられている)

〈付録 3 — 3〉

ここに Foreign Language Annals, April 1988, Vol.21, No.2, pp.177-197 に発表された 1986 年版の ACTFL Russian Proficiency Guidelines を紹介しておこう。前書きには、ここで指示される分類は、いかなる言語学的・教育的な理論に立脚するものでもないことはもちろん、各レベルに関する記述にしても網羅的ではさらさらなく、あくまでも概略的なものでしかないことが、断られている。本論でも述べたように、このガイドラインでは Speaking、Listening、Reading、Writing の能力がまずは 4 レベルに大別され (Listening と

Reading は 5 レベル)、それがさらに 9 つの下位レベル (Listening と Reading は 10 レベル) に分類されている —

〈A〉 NOVICE: (1) Novice-Low (2) Novice-Mid (3) Novice-High

〈B〉 INTERMEDIATE: (1) Intermediate-Low (2) Intermediate-Mid
(3) Intermediate-High

〈C〉 ADVANCED: (1) Advanced (2) Advanced-Plus

〈D〉 SUPERIOR

〈E〉 DISTINGUISHED

(推測の域を出ないが、Listening、Reading は 5 (→ 10) レベル、Speaking、Writing は 4 (→ 9) レベルに分類されているのはおそらく、受動的な能力の Listening、Reading は能動的な能力の Speaking、Writing よりも発展の度合いが上回る可能性が大きいという理由によるのではなかろうか?)

各レベルの概略説明の記述は、大枠レベルの普遍的概要説明から始まり、下位レベルの説明が「一般」、「ロシア語」という順番で続いている。ガイドライン全体の紹介は別の機会に譲るとして、ここでは「ロシア語」部分の記述だけに絞って紹介（翻訳ではない）することにしよう。

なお断るまでもなく、このガイドラインの発表はソ連崩壊前の 1986 年と古く、「ソ連」は「ロシア」、「レニングラート」は「ペテルブルク」と読み替えていただければ幸いである。

SPEAKING

〈A〉 NOVICE

(1) Novice-Low

時と場合によっては «да»、«нет»、«спасибо» といった単語を話すことができる。

(2) Novice-Mid

«здравствуйте»、«до свидания»、«извините»、«пожалуйста» などのごく基本的で丁寧な定型表現を話すことができ、また厳格に制限された語彙

— そうした語彙には «дом»、«брат»、«машина» といった普通名詞、«я»、«ты»、«вы» といった代名詞、«хороший»、«красивый»、«новый» といった形容詞、«хорошо»、«плохо» といった副詞、«я знаю»、«я читаю» といったいくつかの簡単な動詞変化が含まれる — で構成された単純な質問に答えることができる。

(3) Novice-High

«Меня зовут...»、«Я студент/студентка.»、«Извините, пожалуйста.» といった簡単な定型表現を含んだ短い陳述文、«Кто это?»、«Что это?» といった簡単な疑問文を話すことができる。

語彙は大幅に制限し、基本的な対象物 («город»、«газета»、«книга»)、家族のメンバー («отец»、«мать»、«брат»)、曜日名 («понедельник»、«вторник»)、色 («белый»、«красный») などに限定する。

名詞を形容詞 («большой»、«красивый»、«американский») および所有代名詞 («мой»、«его»、«ваш») と結合させることができる。

いくつかの基本動詞 («читать»、«работать»、«говорить») を現在変化させることができる。

時と場合によってはいくつかの場所の副詞 («там»、«здесь»、«далеко») や時の副詞 («утром»、«сейчас»、«сегодня») を使いこなすことができる。

人称代名詞 «ты» と «вы» をある程度使い分けることができる。

ただし形容詞および所有代名詞の語尾、動詞の変化語尾は完全ではなく、しばしば間違える。

アクセントとイントネーションの知識はほとんどなし。

〈B〉 INTERMEDIATE

(1) Intermediate-Low

出会いの挨拶 («Здравствуйте!»、«Как дела?»)、始めの紹介 («Как вас зовут?»、«Очень приятно познакомиться.»)、別れの挨拶 («До свидания.»、«Увидимся.») ができる。

ある程度の自己紹介ができる（「Я американский студент/американская студентка.」、
「Я учу русский язык в университете.」、
「Мой отец—адвокат.」）。

相手の注意を引くことができる（「Можно вас спросить/попросить?」）。

時候の挨拶ができる（「Что нового?」、
「Рад/Рада вас видеть.」）。

勧誘とその応対ができる（「Приходите завтра.」、
「Пойдём в кино.」、
「С удовольствием.」、
「К сожалению, не могу.」）。

食事などを注文する（「Принесите меню.」、
「Дайте, пожалуйста, котлеты по-киевски.」、
「Сколько с меня?」）、道や行き先を尋ねる（「Скажите, пожалуйста, где станция метро?」、
「Где тут остановка автобуса?」）、
ちょっとした買い物をする（「Покажите, пожалуйста.」、
「Сколько стоит?」、
「У вас есть...?」）といった単純な状況に即した会話ができる。

ホテルのフロントのような公共機関での会話ができる（「Вот мой пропуск」、
「Дайте, пожалуйста, ключ от номера.」）。

格変化をある程度自覚的に運用し、主語と述語を一致させることができるが、なじんだ文脈においてもしばしば格変化、前置詞の選択、動詞の変化において間違いを犯す。

(2) Intermediate-Mid

相手に対し自分に関する若干の情報を提供するとともに（「Я родился/родилась в ...」、
「Мне ... лет.」）、相手に簡単な質問をしながら（「Откуда вы?」、
「Где вы сейчас живёте?」、
「Где вы учитесь?」）短い会話ができる。

余暇の過ごし方について話ができる（「Я люблю играть в...」、
「Я увлекаюсь ...」）。

食料品の買い物ができる（「Дайте, пожалуйста, двести грамм ...」）。

ホテルに部屋を取ることができる（「У вас есть номер на двоих?」、
「В номере есть ванная?」）。

方向指示の質問と応答ができる（「Вы не скажете, как лучше дойти до станции метро?」、
「Вам лучше ехать на метро.」）。

簡単な取り決めができる（「Приходите в шесть часов.」、
「Я вернусь

через полчаса.»)。

イベントについての情報を尋ねることができる («Когда начинается вечерний сеанс?»、«У вас есть билеты на ...?»)。

自分の気持ちと考えをある程度表明できる («Мне холодно.»、«Я очень люблю современную музыку.»)。

形容詞と名詞の結合、主語と述語の一致、格の1部（たとえば主格、生格、対格、前置格）の運用がかなり正確にできる。

頻用される命令表現を使いこなすことができる («скажите»、«дайте»、«идите»、«принесите»、«покажите»)。

«хотеть»、«мочь»、«любить»といった動詞も、しばしば変化を間違えるが、一応使うことができる。

(3) Intermediate-High

実際の出来事についての一般的な会話をかわしながら、時制（現在・過去・未来）の使い分けによって自分のことをさらに詳しく紹介できる («Я окончил/а школу в ... году.»、«После университета я буду работать в ...»)。

日々の行為についてさらに詳細に描写説明できる («Я обычно встаю в ... часов, принимаю душ и иду завтракать в столовую.»)。

余暇の過ごし方や自分の好みについてさらに詳しく描写説明できる («Я часто хожу в театр.»、«Я интересуюсь искусством.»)。

より積極的に会話の参加し、賛成反対の意志表示 («Я с вами (не) согласен/согласна.»)、自分の意見の開陳と相手への意見の請願 («Я считаю,...»、«Как по-вашему?»)、相手の意見に対する興味の表現 («Как интересно!»、«Неужели!») ができる。

事物、場所、人間について描写説明できる («Я живу в трёхэтажном доме.»、«Мой родной город находится в северной части штата ...»、«Мой брат блондин высокого роста с голубыми глазами.»)。

時と場合によっては簡単なナレーションができる («Когда я кончил/а

среднюю школу, я поступил/а в университет и начал/а заниматься русским языком.»）。

形容詞と名詞の結合、主語と述語の一致、格の運用がさらにいっそう正確にできる。

なじみのあるいくつかの動詞は体の使い分けができる。

時間と日付の表現を使い始めるが、よく間違いを犯す。

«должен»、«рад»、«готов»といった常用の述語形容詞を使いこなすことができる。

時と場合によっては«что»、«когда»、«где»、«потому что»、«поэтому»、«чтобы»といった接続詞を伴った重文、複文を使うことができる。

時と場合によっては関係詞«который»に導かれる形容詞節を使うことができる。

〈C〉 ADVANCED

(1) Advanced

ソ連における学習・研究や旅行に関して当地の関係機関（者）と交渉することができる。

書類の紛失、約束・予約の不履行といった複雑な状況において必要な事項や思っていることをきちんと伝達できる。

公益に関する話題（たとえば大学のカリキュラムや時間割、社会の生活状況、キャンパス内のイベント、現在行われているイベント）や私事に関する話題（たとえば勉学、仕事、余暇）について普通に話し合える。

客観的事実の比較をすることができ（たとえばアメリカとソ連の暮らしぶり、ロシア語学習とその他の言語学習）、あまり複雑ではない仕方で自分の見解を披露できる（たとえばどうしてロシア語学習は困難あるいは容易かといったことや、ロシア語学習の最良の方法は何かといったこと）。しかしこのレベルでは自分の見解を開陳はできても、異なった見解を論破してまでそれを押し通すことはできなくともかまわない。

すべての格の用法と動詞の時制を十分に修得し、動詞の体、時制の一致、

相（態）、法、運動の動詞をある程度使いこなすことができる。

条件法を含まない仮定文はある程度使えるが、条件法を含んだ仮定文はほとんど使えない。

«ли» や «чтобы» を含んだ間接話法文をある程度使うことができる。

様々なタイプの従属節を用いて文を拡大できるが、関係詞 «который» を含んだ従属節には、とりわけ関係詞 «который» が斜格の場合には、間違いが頻発する。

情報の新旧を際立たせるために語順の組み替えをおこなうことができる。

時と場合によって «же» や «ведь» などの常用される助詞のいくつかを使うことができる。

«-то» や «-нибудь» を伴う不定代名詞および副詞を十分に使いこなすことができる

(2) Advanced-Plus

意見を主張・擁護したり、仮説を立てたりする際にロシア人が通常使用する表現や構文を («по-моему»、«в виду того, что»、«скажем»、«возьмём»、«например»、«если бы» и т. д.) パラグラフサイズで使いこなすことができるが、ときとして一貫性に欠けることがある。

時事問題や個人的関心事について意見交換ができ、ソ連の日常生活において生じる様々な状況に対応できるが、不慣れな状況については対応が困難な場合もある（たとえば台所の流しの配水管にコンタクトレンズを落とし、дежурная にスパナを借りたい場合など）。

格、時制、体、相（態）、法、運動の動詞、および仮定文や間接話法を十分に使いこなすことができる。

一般的な語彙力が十分にあるとともに、特別に関心を寄せている分野ではさらに優れた語彙力がある。

発言を構成する際に文と文を様々な語句で («однако»、«несмотря на»、«благодаря тому что»、«тем не менее»、«короче говоря» и т. д.) 結合させることができる。

発言内容を強調するために、自由に語順を組み換えることができる。

«то»、«пожалуй»、«же»、«ведь» といった助詞をさらに自由に使いこなすことができる。

〈D〉 SUPERIOR

次のような話題に十分対処できる —

- (a) アメリカにおける運転免許の取得方法や大学の入学手続きを説明するといった実際的な話題
- (b) アメリカにおける保育制度や女性の社会的役割について説明したり、アメリカとソ連の健康保険制度を比較するといった社会的話題
- (c) 見学や会議のために事前の取り決めをしたり、製品あるいはサービス、条件などについて手短な解説を加えるといった専門的な話題
- (d) アメリカの賃金格差の是正方法、核エネルギー使用に伴う弊害の解消方法、大学スポーツの是非といった抽象的話題

状況に応じた文体の使い分けは（たとえば公式の場で上司や同僚に話しかける場合と非公式な場で友人に話しかける場合）必ずしもできなくともよい。

文法的知識は十二分にあり、格、時制、体、運動の動詞、相（態）、従属節、語順、仮定法、間接話法、イントネーション、様々なタイプの構文や話法を自由に使いこなし、間違いも偶発的にしか犯さない。

LISTENING

〈A〉 NOVICE

(1) Novice-Low

実際に話されたロシア語を聞き取る能力は 0。耳で理解できるのはわずかな借用語（«Америка»、«метро»、«профессор»）と簡単な常用語（«да»、«нет»、«спасибо»）。

(2) Novice-Mid

毎日の定型表現（«Здравствуйте!», «До свидания.», «Пожалуйста.»）を聞き取ることができる。

簡単な疑問文 («Как вас зовут?», «Как дела?», «Что это?») を聞き取ることができる。

常用の命令文 («Идите сюда!», «Возьмите книгу!», «Откройте дверь!») を聞き取ることができる。

短い陳述文 («Это парк.», «Я русский.») を聞き取ることができる。

(3) Novice-High

学習した短い疑問文と陳述文を聞き取ることができるが、おもに自分や家族に関するものに限定される («Кто вы?», «Где вы живёте?», «Сколько вам лет?»)。

学習した天気や曜日に関する話題を聞き取ることができる («Какой сегодня день?», «Сегодня хорошая погода.»)。

状況が理解に大いに役立つ場合の会話 — たとえば食事中 («Передайте, пожалуйста.»)、レストラン («Что вы будете пить?»)、地下鉄 («Следующая станция ...»)、店屋 («Платите в кассу.*/) — を聞き取ることができる。

〈B〉 INTERMEDIATE

(1) Intermediate-Low

個人的な問題に関する簡単な疑問文や陳述文を聞き取ることができる («Откуда вы?», «Кто ваши родители?», «Где вы учитесь?»)。

謝辞のような社交辞令表現を聞き取ることができる («Извините за беспокойство.»)。

簡単なサバイバル表現—宿泊 («Номер на пятом этаже.»)、交通機関 («Станция "Площадь Москва" через три остановки.»)、娯楽 («Начало спектакля в двенадцать часов.»)、方向指示 («Перейдите площадь, поверните направо.»)、常用の公務命令 («Предъявите пропуск!», «Покажите таможенную декларацию!*/) — を聞き取ることができる。

時間と天気に関する質問文と陳述文を聞き取ることができる («Который час?», «Московское время девятнадцать часов пятнадцать минут.»、

«Сейчас в Москве десять градусов тепла.»）。

(2) Intermediate-Mid

個人的履歴、日常生活、勉学、余暇の過ごし方、趣味に関する簡単な質問文と陳述文を聞き取ることができる（«Где вы родились?», «Какие предметы вы изучаете?», «Чем вы увлекаетесь?»）。

簡単な電話の定型表現を聞き取ることができる（«Позовите к телефону.», «Вы не туда попали.»）。

短い公共放送を聞き取ることができる（«Объявляется посадка на рейс ...»）。

ラジオの番組の違いを聞き取ることができる（たとえば последние известия を сводка погоды と区別できる）。

テレビとラジオから番組の情報を拾い聞きすることができる（«В шестнадцать часов пятнадцать минут—спортивные известия.»）。

映像が聞き取りの多大な助力となるような簡単なテレビ番組から、その主題と詳細の一部を聞き取ることができる。

(3) Intermediate-High

個人生活、学校、仕事、趣味、余暇の過ごし方などについての短い会話、ナレーション、解説を大筋において聞き取ることができるが、詳細は聞き取ることができない。

ラジオ放送のいくつかの複雑ではないニュースから、主要事項を拾い聞きできる（«Приезд делегации...», «Передаёт гидрометцентр...» и т.д.）。

映像が聞き取りを助けてくれるようなテレビ放送から、主要事項を聞き取ることができる。

簡単なメッセージを聞き取ることができる（«Передайте, что звонил/а ...», «Пусть перезвонит после десяти часов.»）。

口頭説明を聞き取ることができる（«Вы должны заполнить анкету.», «Билеты можно получить за полчаса до начала спектакля.»）。

<C> ADVANCED

(1) Advanced

外国人の扱いに不慣れなごく普通のロシア人が面と向かって、普通の速度で、ときどき繰り返しや言い直しを挟んだり、様々な時制による叙述を交えながら、個人的な履歴や日常生活、学校、仕事といった一般的な話題について話すのを聞き取ることができる。

誰もが知っているような時事問題に関するテレビ・ラジオの放送から、その要点と詳細のいくつかを聞き取ることができる。

特に関心のある分野（たとえばロシア語、文法、文学や文化、ソ連生活の諸側面等々）についての短い討論や講義を聴いて、その論点を理解できる。

メッセージが冗長と思えるほど反復されない限り、詳細にまで理解が行き届かない場合もありうる。

(2) Advanced-Plus

標準ロシア語で話される非専門的な会話のうち、自分が含まれた場合のすべてと自分が含まれない場合のほとんどを理解できる。

特に関心のある分野（たとえば言語学、文学、歴史、政治、語学学習、大学生活等々）における専門的な会話や講義を理解できる。

非専門的なほとんどあらゆる話題に関する講義を聴き、その要点と詳細の大部分を理解できる。

テレビ・ラジオのニュースやインタビュー、討論などの要点と詳細の大部分が理解できる。

スタジオで編集された映画か、若者向けの映画のように対話の簡単な映画の要点と詳細の大部分が理解できる。

〈D〉 SUPERIOR

標準ロシア語で話される非専門的な会話のすべてを理解できる。

言語学的にも内容的にも複雑な叙述があるまとまりをもってなされる特別な分野（たとえば大学の講義や商談、会議における報告と討論等々）での討論がすべて理解できる。

テレビ・ラジオの放送（演説やインタビュー、国内ニュースを含む）の要点と詳細のほとんどが理解できる。

実況あるいは録音された演劇、それに映画の要点と詳細のある部分が理解できる。

〈E〉 DISTINGUISHED

個人的、社会的、専門的な状況における（交渉、公式の外交会談、映画、演劇、詩の朗読のような文学作品の朗読、シンポジウムにおける発表、公開演説などを含む）ロシア語のあらゆる文体と形式を聞き分け、理解できる。

ユーモアを解し、言葉遊びができるとともに、スラングもある程度は知っている。

READING

〈A〉 NOVICE

(1) Novice-Low

ロシア語を読む機能的能力は 0。活字体で印刷されたキリル文字のいくつかと、「такси」、「паспорт」、「Аэрофлот」、「Америка」といったような国際的に流通している単語や名前を読むことができる。

(2) Novice-Mid

ロシア語を読む機能的能力は 0。活字体で印刷されたキリル文字のすべて、それにいくつかの個人名（«Иванов»、「Ленин」）、通り名（«улица Горького»、「проспект Маркса」）、簡単なものの名前（«ресторан»、「кафе»、「институт」）、サイン（«ВХОД»、「ВЫХОД»、「автомат»、「туалет」）、新聞のタイトル（«Правда»、「Известия」）、貨幣（«рубль»、「копейка」）、なじみのある地図上の地名（«Москва»、「Ленинград」）などを単語レベルで読むことができる。

(3) Novice-High

色々な活字体と筆記体を読むことができる。

地図上の名称（«Владивосток»、「Новосибирск」）、サイン（«Магазин открывается в ... часов.»、「Закрыт на ремонт.»）、地下鉄の駅の名称（«Юго-западная»、「Площадь Свердлова」）、メニューの品目（«суп»、

«борщ»、«котлеты»、«вино»）、時間割（«практические занятия»、
«фонетика»、«лингфонный кабинет»）、映画やテレビのガイド、各種の書
類（パスポート、切符、レシート、領収書）、広告（文化的イベント、売り
出し）、単純な（1センテンスをほとんど越えることのない）個人的なノー
トやメッセージや招待を読むことができる。

〈B〉 INTERMEDIATE

(1) Intermediate-Low

個人的な書面（ノート、メッセージ、覚え書き）を読んで、要点を理解で
きる。

書面での単純な方向指示（ある地点からある地点にどうやって行くか）、
新聞の単純な記事（天気予報、スポーツ、地域イベントや文化イベント、求
人案内や各種学校案内の広告等々）を読んで理解できる。

(2) Intermediate-Mid

簡単な政治報道（外国の使節団の発着、国の首脳同士の電文のやりとり
等々）、サービスや場所の簡単な解説書（旅行案内等々）、公共のイベントや
天気およびスポーツに関するやや詳細な報道を読んで理解できる。

(3) Intermediate-High

スポーツイベント、コンサート、演劇、ラジオ、テレビ、単純な政治報道
（演説や交渉、選挙結果に関するレポート、宇宙開発計画についてのレポー
ト、手短な百科事典な事項解説、簡単な伝記等々）などの簡単なひとまとま
りのテキストを読んで理解できる。

読者の当該地域に関する知識の多寡によっては、「Известия」の «Зару-
бежный калейдоскоп» や «Советская Россия» の «Интеркурьер» といった
欄でしばしば目にする簡単な解説記事から要点を拾い読みすることができ
る。

〈C〉 ADVANCED

(1) Advanced

たとえば «Литературная газета» の «Зарубежная культура» や «Извес-

тия」の「Международный комментарий」、*«Правда»* の「Колонка комментатора」に収録される簡単で短い記事についてはほとんど完全に読んで理解できる。

ソ連の高校で使用されている様々な分野の教科書、説明書（公的手続きの方法の概略や器具の取り扱い方法等々）、伝記あるいは地理やイベントの案内のような百科辞典的な事項解説を読んで、ほとんど完全に理解できる。

(2) Advanced-Plus

ソ連およびその他のロシア語新聞・雑誌に発表された国際的な出来事、文化的・社会的ニュースの大部分、政治的・社会的論説の一部、それにソ連国内ニュース（たとえば産業や農業に関するニュース）の一部を、ほとんど完全に読みこなすことができる。

特に関心のある領域に関する資料をほとんど完全に読みこなすことができる（たとえば語学教師は「Русский язык за рубежом」を読みこなせる）。

難解ではない散文（たとえば簡単な短編）、批評論文の一部、とりわけ常用される公的通信文の大部分を読みこなすことができる。

〈D〉 SUPERIOR

高等教育を受けたロシア人向けに書かれた散文の大部分をほとんど完璧に読みこなすことができる。そうした散文には 19～20 世紀の作家の作品、一般的なエッセイ、政治論文、専門的解説書、各種の規範、契約や条約といった公式書類も含まれる。

〈E〉 DISTINGUISHED

19～20 世紀の作家の詩や戯曲、それに文体と語彙の複雑難解な作家の作品を読みこなすことができる。

ソ連の専門家向けの専門職業雑誌を読みこなすことができる。

歴史的、文化的、文学的な言及や連想について広範囲にわたって理解できる。

ユーモアやアイロニー、風刺を理解し、鑑賞できる。

WRITING

〈A〉 NOVICE

(1) Novice-Low

ロシア語を書く機能的能力は0。活字体のロシア文字をいくつか書くことができる。

(2) Novice-Mid

記憶した単語をいくつか書くことができ、印刷された単語や見覚えのある短いフレーズを活字体で書き写すことができる（«Москва»、«Ленинград»、«студент»）。

(3) Novice-High

ロシア語のアルファベットをすべて筆記体で書くことができる。

旅行の申し込み、ホテルの登録といった簡単な申込用紙に個人情報を書き入れることができ、個人の所有物、部屋にあるもの、家族の名前、食料品などの簡単に短い一覧表を作成することができる。

電話の会話から、もしもそれが以前学習した内容を再現するものか、あるいはそれを組み換えたものである場合には、なにがしかの簡単な情報を書き留めることができる。

以前の学習内容を組み立てるか組み換えて、自分について複数の文を書くことができる。

書くことのできる文の大部分は短くて相互の関連性のないものか、もしくは一覧表であり、そこにはミススペルと語学的な誤謬が数多く見られる。

キリル文字の代わりに英語の文字を使うことがしばしばである。

ロシア語の句読法についてはほとんど知識を有していない。

〈B〉 INTERMEDIATE

(1) Intermediate-Low

簡単な自己紹介文を、大部分は現在形で書き上げることができる（«имя»、«отчество»、«фамилия»、«день рождения»、«гражданство»、

«специальность» и т.д.)。

スケジュールや短く簡単なノートを作成することができる（たとえばルームメイトあるいは教師へのメッセージなど）。

簡単な電話の会話から基本的な情報を書き留めることができる。

作文の大部分は、修得した素材を単文あるいは文の断片へと組み換えたものである。

スペリング、文法、句読法において不断に間違いを犯し、しばしばロシア語の知らない単語の代わりに英語の語彙を挿入する。

(2) Intermediate-Mid

友人や知人への個人的メッセージを含んだノートを作成することができる（たとえば招待、お祝い、打ち合わせ、招待や祝いへの返信など）。

知人に自分や家族、日常生活、好き嫌いなどについての短くて簡単な手紙を、おもに現在形を使って書くことができる。

簡単な電話の会話を書き留めることができる。

日記に記入するような個人的経験に根ざした身近な話題について簡単なノートを作成することができる。

作文の大部分は短い単文で構成されているが、文法的誤謬が多く、語彙的正確さに欠ける。

従属節はほとんど使えず、人称代名詞や指示代名詞を使って文を結合させることも、文をパラグラフへとまとめ上げることもほとんどできない。

(3) Intermediate-High

学歴も含めた自伝的事実や個人的な事柄を題材とした私信を、簡単ないくつかのパラグラフにまとめて作成することもできれば、またその返信を作成することもできる（«наш университет»、«мои занятия»、«мой любимый предмет»、«как я провожу свободное время»）。

現在形のみならず、過去形や未来形を使っての説明や叙述をかなり自在にできなければならないが、体の用法についてはしばしば間違いを犯す。

ほとんどの格の用法、形容詞と名詞の結合、主語と述語の一致について十

分な知識を有する。

語順についてはまだ、主語＋述語＋目的語という枠組みからほとんど抜け出せず、時や場所、様態を表すフレーズの配置もしばしば不的確である。

何らかの従属節を用いて文を拡大しようとするが、なじみの構文以外ではよく間違いを犯す。

〈C〉 ADVANCED

(1) Advanced

常用の通信文を始め、個人的な趣味 («мои увлечения»、«мой любимый писатель»、«телевидение/кино/спорт в моей жизни»)、大学のカリキュラム、キャンパス内のイベント、社会生活、時事問題、各種の比較（たとえばアメリカの生活とソ連の生活、ロシア語学習とその他の言語の学習など）に関するエッセイを、それぞれの時制における説明、叙述を使い分けながら書くことができる。

ラジオ・テレビの放送から報道された事実の要約や、映画の簡単な批評、映画や文学作品のプロットの要約を書くことができる。

すべての格の用法、動詞の時制は十分によく使いこなし、体や相（態）、法、運動の動詞、仮定文については部分的に使いこなすことができる。

いくつかの常用の接頭辞、特に運動の動詞と結びつく接頭辞についての知識をかなり有する。

語順については次第に組み替えができるようになり、ときには強調のために語順の変更をおこなうことができる。

また若干は文と文を繋ぐ語句を使うことができる («во-первых»、«однако»、«кроме того» и т.д.)。

自前の文を作成しようとする場合、特に複雑な文の場合には、まだしばしば英語からの直訳に依存しがちである。

辞書を使用してロシア語の相当語句を見つけようとする際にも、とりわけそれが抽象的な動詞の場合には、まだ不適切な語句を選択することがある。

(2) Advanced-Plus

社交的通信文のほとんど、それに非公式な商用通信文の一部（たとえば依頼、注文、打ち合わせ、苦情など）を、挨拶、書き出し、結び、表題といった通常期待されている定型を守ってきちんと書くことができる。

かなり詳細にわたってのレジュメや要約を作成でき、講義や商談、非公式の討論などの正確なノートを取ることができる。

すべての格や時制の用法は完全に使いこなし、体、相（態）、法、仮定法文、間接話法文についてもある程度は使いこなせる。

作文を構成するために、文と文を結合する語句や話題転換のための語句のあれこれをだいたい上手く使いこなすことができる。

作文の大部分はいまだに英語をモデルとしたものではあるが、ロシア語の語順についても十分に使いこなすことができるようになっている。

〈D〉 SUPERIOR

あらゆるタイプの社交的な書簡や商用文、それに歴史や文学等々といった特に関心があるか専門とする分野の研究論文を作成することができる。

十分な文法力と広く一般的な語彙力を備えており、多種多様な話題において自分の考えや意見を書面で開陳することができる。

形動詞や副動詞によって導かれる様々なタイプの従属節あるいは句を含んだ形式的な文章に典型的な構文を、すべて十分に使いこなすことができる。

既知の情報と新規の情報を区別し、強調するために語順を自在に組み換えることができる。

文と文を結合する語句を多様に用いて文を並べ替えたり、繋ぎ合わせたりして、より大きな首尾一貫したテキストを構成することができるが、それでもロシア語の非公式、学術、官僚、ジャーナリズム等々といったあらゆる分野の文体を使いこなすことができるわけではない。

作文にはしばしば作者の母国語の構成パターンや文体技巧が影を落としている。

さして常用されることのない構文中での偶発的な間違いは、ロシア語を母国語とする読者の誤解を招くことも、理解を妨げることもありえない。

(何だか分かったような分からないような、あってもよければなくてもよいようなガイドラインである。しかし、もちろんあった方がいい。ないよりはずっといいに決まっている。とはいえ、もっと具体的に語彙や文法事項に触れてくれていたら……というのが偽らざる感想である。「ここは何処だい、アメリカだよ。自由の国だよ。Aが基本語彙は1,000といい、Bが900といい、Cが800といったら、基本語彙はつまり800~1,000というのが精一杯さ。内実にどれほどの一致があるかどうかはまた別としてね。だから確かにかつて一度だけ統一テストなるものを実施したことがあったけど、それっきりだね」。なるほどである。日本もまた自由の国であるのは、喜ばしいことなのかも知れない。)

(本論分は1999年度海外研修の成果の一部である)

＜付録 3－4＞

大まかな対照表は以下の通りである。

	ACTFL ガイドライン	夏期講習レベル	通常授業科目
初級	NOVICE-LOW	LEVEL-1	① ELEMENTARY RUSSIAN-I /4/ ① ELEMENTARY ORAL RUSSIAN-I /1/
	NOVICE-MID	LEVEL-2	① ELEMENTRY RUSSIAN-II /4/ ① ELEMENTARY ORAL RUSSIAN-II /1/
	NOVICE-HIGH	LEVEL-3	② INTERMEDIATE RUSSIAN-I /3/ ② INTERMEDIATE ORAL RUSSIAN-I /2/ (② PUSHKIN TO DOSTOEVSKY/3/)
中級	INTERMEDIATE-LOW	LEVEL-4	② INTERMEDIATE RUSSIAN-II /3/ ② INTERMEDIATE ORAL RUSSIAN-II /2/ (② PUSHKIN TO DOSTOEVSKY/3/)
	INTERMEDIATE-MID	LEVEL-5	③ ADVANCED INTERMEDIATE RUSSIAN-I /3/ (③ TOLSTOI AND DOSTOEVSKY/3/)
	INTERMEDIATE-HIGH	LEVEL-6	③ ADVANCED INTERMEDIATE RUSSIAN-II /3/ (③ TOLSTOI AND DOSTOEVSKY/3/)
上級	ADVANCED	LEVEL-7	④ ADVANCED RUSSIAN-I /3/ (④ READING IN RUSSIAN LITERATRE-I /3/) (④ READING IN RUSSIAN CULTURE, HISTORY AND SOCIETY/3/)
	ADVANCED-PLUS	LEVEL-8	⑤ POLITICAL RUSSIAN/3/
	SUPERIOR	LEVEL-9	(⑤ PROSEMINAR IN RUSSIAN LITERATURE/3/)
	(DISTINGUISHED: Listening と reading のみ)		(⑤ 18th CENTURY RUSSIAN LITERATURE/3/) (⑤ 19th CENTURY RUSSIAN LITERATURE/3/) (⑤ PUSHKIN TO DOSTOEVSKY/3/) (⑤ TOLSTOI AND DOSTOEVSKY/3/) (⑤ RUSSIAN DARAMA/3/)

＜注＞

- ①②③④⑤はそれぞれ開講学年 1 年、2 年、3 年、4 年、大学院を示しており、また/1/、/2/、/3/、/4/はクレジット数を示している。
- 夏期講習のレベルは、本文で述べたように、その前後のレベルの範囲を半分ぐらいずつカバーしている。
- 括弧内の科目は、本文で述べたように、語学学習に重点をおいたものではないが、それぞれの学年で履修できる科目である。ここでいう語学に重点をおいた科目とは原則的に 50 分授業の科目のことであり、それ以外の科目は 75 分授業である。
- ⑤ POLITICAL RUSSIAN は、本文で述べたように、4 年次に履修可能である。
- PUSHKIN TO DOSTOEVSKY と TOLSTOI AND DOSTOEVSKY は学部・大学院共通授業。
- 表にはのせていないがこの他に 4 年次生と大学院生用の科目としてレベルの 1～6、つまりガイドラインの初～中級をカバーする RUSSIAN FOR GRADUATE STUDENTS I～II がある。